雪の音（ゆきおと）

Vol.131
平成29年10月15日発行

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

雪の音

CONTENTS 目次 2017 October Vol.131

巻頭言	新しい建設コンサルタント業登場への思い	国土交通省　北陸地方整備局 局長　小俣　篤	1
特　集	南砺市利賀村上百瀬で発生した 土砂災害について	富山県　砺波土木センター	2
随　想	折々のこころ模様	中田千鶴子	6
寄稿文	石崎奉燈祭の地域力に感動 （祭りのためのひと・まちづくり）	一般財団法人地域振興研究所 理事　永島未輝	8
ちょっと気になるコーナー	新潟県県央の地場産業体験と観光	中越トラベル（朝日交通㈱観光部） 常務取締役　山崎康裕	12
お知らせ	道路橋メンテナンス技術講習会報告（新潟会場）	技術部会　橋梁委員会	14
お知らせ	平成29年度 石川地区社会貢献活動 ～白山国立公園・外来植物除去作業に参加～	石川事務所	18
お知らせ	たのしく学ぼう ふるまち防災フェスタ	広報部会	20
お知らせ	おやこで見学会	広報部会	22
お知らせ	平成29年度 道路・トンネル技術講習会報告 「ラウンドアバウト・トンネルCIM」	技術部会 道路委員会・トンネル委員会	26
お知らせ	社会貢献活動 ふるさと富山美化大作戦実施	富山事務所	28
お知らせ	平成29年度 北陸支部防災訓練等の結果 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部	災害対策部会・総括部会	29
お知らせ	「けんせつフェア北陸 in 新潟2017」開催案内		32
お知らせ	「平成29年度 建設技術報告会」開催案内		33
	北陸支部活動報告	事務局	34
	会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	40
	編集後記	水野慎介	

［題字］
元北陸地方建設局長
廣瀬利雄　揮毫

［表紙］
タイトル　冬までのんびりと
撮影地　福島県南会津郡只見町
撮影者　猪俣孝之

［裏表紙］
タイトル　只見から垣間見る破間川
撮影地　新潟県魚沼市穴沢
撮影者　猪俣孝之

巻　頭　言

新しい建設コンサルタント業登場への思い

国土交通省　北陸地方整備局　局長
小俣　篤

地方整備局の業務は、企画、建政、河川、道路、港湾、営繕のように、組織に応じて仕切られており、土木系の建設コンサルタントの仕事も、多くの場合それに応じた部門に所属する技術者が担ってこられたと思います。公共事業が拡大し、おのおのの部門において、業務量および業務の質の高度化が求められていた時代には、そのような専門分野への特化はよりよい業務成果や効率的な業務推進にとって必要であったものと思われます。しかし、現在の社会は、より高い生産性を要求し、社会資本には高度なストック効果が期待されています。このような状況下で、社会資本の整備を担う行政とそれを支えるコンサルタントはどのように仕事を進めていくべきなのでしょうか。

河川、道路、港湾などの社会資本は、洪水の安全な流下、渋滞の解消、安全な船舶の停泊などの本来的な目的に加え、その結果としてもたらされる、工場誘致や物流の円滑化などの様々な社会・経済的な効用を果たすことが知られています。さらには、道の駅、港オアシス、かわまちづくりなどのような取り組みが進められていますが、これらは公共施設や公共空間が持つ効用の新たな発現（ストック効果）の形とみることができます。

そのような社会資本のストック効果は、地域や広域的な社会・経済のニーズから求められるものと考えられます。近年では社会・経済の新たなニーズを反映して、従来とは異なるストックの活用も進められています。まち中にあるやっかいな古い空き家をリノベーションにより新たに活用し、それに伴ってまちを活性化していく取り組みはその分かり易い例と考えられます。

それでは、既にある社会資本、すなわちストックの新たな効用を誰が見極め、発現させていくべきなのでしょうか。もちろん、社会資本を管理する立場の行政は、その第一の担い手であるべきであり、施設や空間のマネジメントの立場だけではなく、地域やまちづくりのコーディネイターとしての立場も今後は強く求められるのだと思います。しかし、行政だけでは情報や社会・経済とのつながりに限界があります。ここに、土木系の建設コンサルタントの大きな役割があると考えられないでしょうか。

すなわち、社会・経済の持つ新たなニーズやシーズにアンテナを高く持ち、そのようなデータを蓄え、人脈や組織的なネットワークにより、地域活性化やまちづくりに的確な情報提供や助言を行う業務（コンサルティング）に潜在的なマーケットがあると私は感じています。現在、まちづくり・地域づくりの分野ではそのような仕事を、広告業界や不動産業界、あるいは建築系の関係者などの土木分野以外の方々が担っており、活発かつ創造的に取り組んでいるように見受けられます。社会資本を担う土木分野にいる私としては、少し危機感も覚えます。仕事は必要性から生まれてきますので、顧客である地域の住民や経済界などの声をとらえながら業態を柔軟に拡充させていくことが、今の土木の世界に求められているのではないかと考えています。建設コンサルタントは特にその先駆けになるべき立場とは思われないでしょうか。また、若い技術者にとっては、社会・経済との関わりの中で創造的に仕事を考えていく魅力的な技術分野を提供することにもなると推察されます。社会資本の整備が安定的な状況を呈してきた今だからこそ、社会・経済の動きを反映して社会資本をさらに活かす業務分野に建設コンサルタント業が入り込み、そしてそれを担う若い技術者が多く登場してくることを期待しています。

南砺市利賀村上百瀬で発生した土砂災害について

富山県　砺波土木センター

1. はじめに

南砺市利賀村上百瀬地内において、平成29年1月16日午後、谷内谷流域内での斜面崩壊に伴う土砂流出が発生し、1月20日未明に崩壊が拡大したことにより、住宅や県道まで土砂が到達し、家屋の全半壊や県道の通行止めなどの被害が発生しました。

現在、降雪期までの完成を目指し、対策工を施工中であり、本稿ではその概要について紹介します。

【頭部崩壊地の状況（1月20日撮影）】

2. 災害の概要

発生日時：平成29年1月16日（月）　15時30分頃
（20日（金）　0時10分頃拡大）

発生場所：南砺市利賀村上百瀬地内

災害規模：①崩壊地　崩壊幅約100m×延長350m
（土砂流下約600m（20日拡大後））
②流出土砂量　堆積区間（上部）約 50,000m^3
（下部）約 70,000m^3
計120,000m^3

被害状況：人 的 被 害：なし
家屋等被害：住家2棟
車庫・納屋5棟
その他店舗等2棟

避難状況：1月16日（月）自主避難（4世帯6名）
1月20日（金）避難勧告（6世帯10名）
9月11日（月）現在　4世帯8名
（最大時9世帯14名）

【土砂流出状況（1月17日撮影）】

【土砂流出状況（1月20日撮影）】

今回、土砂崩壊のあった区域を含む一帯が土石流危険渓流であり、その下流に（土石流による）土砂災害が発生する恐れがあることから、県では平成19年3月に土砂災害警戒区域を指定し、南砺市がハザードマップを作成し、住民に周知を図ってきました。地域にお住まいの方々はこうしたこともあり、災害に対する危機意識が高く、速やかに避難いただいたことから人的被害は発生しませんでした。

【県道上百瀬島地線への土砂流出状況】

【家屋への土砂流出状況】

南砺市土砂災害現地の状況

3. 対策工事の概要

発災直後から県砺波農林振興センター、南砺市と連携しながら、調査・監視、応急・恒久の対策を行っています。

調査・監視

空撮・測量を行い現地状況を把握するとともに、監視カメラ、ワイヤーセンサー、伸縮計を設置し、監視・通報体制を整えました。また堆積土砂の移動状況を把握するため、衛星を利用して測位できる機器（GNSS）を設置しました。

衛星通信車（国土交通省）

専門家による現地調査

GNSS

応急組立橋

応急対策

県道の迂回路（当初築堤により、その後仮橋により百瀬川対岸へ迂回）を設置し、上流集落の孤立を解消しました。また崩土の拡大への備えとして、百瀬川に河道埋塞事前対策の暗渠排水管、家屋防護のための応急土留めを設置しました。

恒 久 対 策

2月6日に災害関連緊急治山事業及び同砂防事業の採択を受け、対策工事を実施しています。

・災害関連緊急治山事業（発生域での対策）
事　業　費：約13.3億円
事業内容：排土工、山腹工（法切工、土留工、法枠工等）、排水ボーリング工等

・災害関連緊急砂防事業（堆積域での対策）
事　業　費：約15.8億円
事業内容：排土工、堆積工等

※工事のイメージは前頁の空撮写真を参照

【現地撮影（9月8日撮影）】

4. 現在の状況と今後の取り組みについて

4月にも融雪に伴う崩壊拡大により土砂が流出しましたが、家屋を保全する導流堤設置等の措置を講じ、現在、排土工、堆積工（ブロック製作）等の工事や仮排水路の整備を進めており、引き続き現場を監視し、安全性を確保した上で計画的に工事を進めていきます。

随想　折々のこころ模様

中田千鶴子

中高年や高齢者が社会の片隅に押しやられていく世の中になったと嘆く人の声を耳にするが、今に始まったことではない。昭和40年代前半から高齢化社会と言われ始め、高齢社会が問題になって久しい。

久方振りに私と同世代の倉本聰さん脚本によるテレビドラマ『やすらぎの郷』が、昼のゴールデンタイムに登場。戦後間もない頃から活躍され、高齢期を迎えたベテラン俳優が顔を揃え話題になっている。

40年前、話す仕事のかたわら、新たに取り組んだ和紙の花絵。第一回目に開いた教室、生徒と私の作品のテーマが『やすらぎのとき』であった。思えば良いタイトルをつけたものだと当時を偲ぶ。昭和54年10月、会員50人による習作・創作展が38年経った今、鮮やかによみがえる。

ドイツ人女性の訪問を受け、和紙花絵の手ほどき。
教室にて（昭和55年 夏）

東京から居を移し、夢中で仕事に取り組んだ前半の20年。その後、高齢を迎えた父母への面会が、私の生活の中に加わる。

「美しい花だね」―90才の父は耳も遠くなっている。うれしそうな父の顔を見るのは久し振りである。泰山木や紫陽花をはじめ、鉢植えの植木を育てながら、庭の手入れを楽しんでいた頃の父の姿を思い出す。花の名前を問う父に「洋ランのデンファレ」少し大きな声で伝える。「蘭は種類が多いから。ダンファレシ？」思わず笑いがこみあげる。「電話のデン、デンファレ」と伝える。「洋花の名前はムズカシイネ！」と父。

「私も洋花の名前は何度聞いても忘れてしまいます」仕切りのカーテン越しからの女性の声に、私は「大きな声ですみません」と詫びる。「娘さんと一緒でおしあわせですね」と温かい言葉が返ってくる。

細い茎に八輪、蝶が羽を広げたような可憐な花がつらなっている。白と赤紫の二本を小さな花瓶にかざす。白のデンファレを二輪つみとって、水を注いだ小皿に浮かべてお隣の女性の枕元へお持ちする。「まぁ美しいこと。白鳥が二羽およいでいるみたい」少女のような明るい声。ピンク色の鮮やかなカーディガンを、さりげなく羽織ったその人の名は『サトさん』とおっしゃる。私の祖母と同じ名前であることを伝えると、親しみとともに話がはずむ。「昔はフデとかコトとかチヨなど、カタカナの名前でしたから」「私の母はキヨです」「お母さんご病気だそうで」―きっと父が話したのだろう。

お乳の下に脂肪のかたまりが出来て、数日前に手術をされたとのこと。父母と同じ明治生まれの80才の方。江戸末期から明治初期にかけての話など、話に花が咲く。長居は禁物と帰り支度を始めた私に「初対面の私に親切にして下さってありがとうございます。お父さんにもっと話しかけて下さったら…」と気遣いが嬉しい。

病室は男女別のはずが、あいにく塞がっていた為、父と同室になったのだと聞かされる。「もう年ですから、かまいません」―淡々とした語り口に気品の良さと優しいお人柄が伝わってくる。いい方が同室にいらしてほっとする。

あの日、出会ったサトさんは、あれからどんな時間を過ごされたのだろう。一期一会の人の世を想う。

その後、父は退院し、弟家族の待つ住みなれた家へ帰る。母の見舞いにも孫たちと度々出向くほど元気をとりもどしてくれた。

ひとつ違いの明治36年生まれの母は、外出先で転んだことがもとで、長い病院生活を送ることになる。三ヶ月と限られた大病院は、付き添いが必要とあって、母のベッドの横の床で寝泊まりしながら仕事先へ出向くこともあった。一晩で床ずれが進むほど、目に見えて衰弱していく母の姿に、仕事を持っていなければ我が家で介護してあげられるのに、それが無理なだけに心が痛んだ。『老い』という問題と『現代医療のあり方』など、色々考えさせられる。

三ヶ月が過ぎ、ヘルパーさん付きの病院をお世話して頂く。数ヶ月過ぎた頃、訪ねる度に喜んでくれる母に、おろしたリンゴを口元へスプーンで差し出すが、ひと口、ふた口であとは進まない。「おいしくないの?」母の表情が幽(かす)かに曇る。じっと私を見つめながら「あんたの心がおいしい」と。今にも泣きそうな顔の母、か細い声に愛しさだけが募る。

6年、7年と流れるように時が過ぎて行く。ヘルパーさんとの会話も日増しに多くなり、それだけに親しみが増す。「尽くしてあげられるお母さんがいらして、うらやましいです。私は16才で母と別れ、母の愛を知らないのです」―ある時、ヘルパーさんから聞かされ、私は返す言葉が見つからなかった。

夜の9時、消灯時間になると、母の元をあとにした遠い日々が消えることなく、ふとした折りに脳裡をよぎる。「あなたのお母さんは、まるで仏様のような人ね」―10代の頃からの親友によく聞かされた。愚痴や人様の悪口は耳にしたことはなかった。その母が70代後半に『私の生い立ちの記』と題した手記を、私に手渡してくれた。直筆の小冊子は大切に保存している。

平成5年5月5日、東の空にぽっかり姿を見せた満月の夜、祖母の元へ旅立った。その5年後、父は98才の生涯を全うした。

戦争、米軍機の本土襲来、富山大空襲、日本中の人がそうであったように、丸裸から戦後の出発。私は疎開先の小学校へ転校。4年生の2学期であった。戦後の混乱期をひたすら働き続けた、親の辛い経験を子供心に感じとっていた私。大人になった20代の終わりに予期せぬ生活環境の激変に遭う。離婚による可愛い一人息子との別れである。重苦しい決断もあった。大きな喪失は人生の初めの転機となり、自主自立と向き合う生活が始まる。東京オリンピックの年でした。

悲しいことに出会っても乗り越えてきた強さは、両親の生きる姿から頂いたものである、と感謝している。自分に強く厳しく、温かさを大切に生きてきた。今、自分でも信じがたい年令を迎え、残された時間はどれだけあるか解らないが、打ち込める仕事、のめり込める仕事にこれからも向き合っていきたいと思っている。

仕事を通して出会った素敵な人達のこと、そしてアラスカを皮切りにヨーロッパ各地での“花の旅”など、『私の歳時記』として、まとめておきたい。まだまだ宿題がたくさん残っている。

創ること、表現することを、気力、体力とのバランスを心がけながら楽しんでいけたらと思う。そんな私の心のどこかに、まだ見ぬなにかを求め続けている自分がいる。

プロフィール　中田千鶴子

草創期の民放ラジオ、テレビのアナウンサーを経て独立。
東京・富山で活動。
昭和48（1973）年より独自の和紙染色と花絵の創作をはじめる。
昭和52（1977）年、教室開設。
平成6（1994）年開講の北日本新聞カルチャー教室講師。

石崎奉燈祭の地域力に感動
（祭りのためのひと・まちづくり）

一般財団法人地域振興研究所 理事　永島未輝

1．石崎奉燈祭の「乱舞」「練り歩き」を間近に

昨年の5月に姪が七尾市石崎の漁師町に嫁ぎました。嫁いだといっても旦那とともに金沢市内に勤めており、アパート暮らしです。

旦那は石崎の漁師町に生まれ、盆、正月以外に必ず里帰りしなければならないのが石崎奉燈祭です。

姪や妹夫婦の誘いもあり、今年の8月5日の夕方から夜半にかけて、大奉燈6基の「乱舞」と「練り歩き」を観ることができました。

1つの奉燈を100人もの男達が担ぎ、建ち並ぶ家々の軒先をかすめて進む様子（奉燈の練り歩き）を間近に観ることができ、親と子と孫、そしてひ孫へと連綿と伝えられていく地域力に感動しました。

東一区付近の「練り歩き」

七尾市ホームページより

2. 能登のキリコ祭りと石崎の奉燈祭り

1）能登のキリコ祭り

能登半島には、木枠で組んだ大型の灯籠を担いで神輿に供奉し、神幸の明かしとする行事が広く分布しています。大型の灯籠は、キリコ（切子）・ホートー（奉燈）・オアカシ（御明かし）などと呼ばれていますが、キリコが能登地域の一般的な呼び方です。

有名なキリコ祭りとしては、今回の「石崎奉燈祭」の他、あばれ祭りとして有名な「宇出津のキリコ祭」、大松明につけられている御幣を奪い合う輪島南志見の「水無月祭」、輪島塗のキリコが出る「輪島大祭」などがあります。7月から9月にかけて「キリコ祭」はピークを迎えます。毎週行われる各地区の祭りに親戚や友達を呼んで、また呼ばれて、祭りを通して家族の絆、親戚との絆、地域の絆を守り育てていく能登の文化と言えます。

2）石崎の奉燈祭り（七尾市観光交流課資料より）

七尾市石崎町は七尾湾に面した漁師町で、かつては石崎八幡神社の納涼祭りが行われ、京都祇園祭りの流れを汲むと言われる山車が練り出されていました。しかし、度重なる大火で山車を焼失し、中断を余儀なくされました。

まちが活気を取り戻した明治の中頃、能登の宇出津地区よりキリコを譲り受けたことを契機に、大漁や五穀豊穣の祈願とともに火を鎮める神事としたことから、「奉燈」を担ぐ灯籠神事として復活を遂げ、今の形がつくられたと言われています。

奉燈（キリコ）は、高さ15メートル、幅3メートル、重さ2トンもあり、担ぐキリコとしては最大級です。

ねじり鉢巻き、さらしに地下足袋姿の約100人の男衆

七尾市ホームページより

に担ぎ上げられ、「サッカサイ、サカサッサイ、イヤサカサー」と威勢よい掛け声とともに町内を練り歩きます。奉燈の上では、花編笠に色鮮やかな浴衣姿の「子若衆」によるお囃子がにぎやかに鳴り響き、笛や太鼓、鉦の音にあわせて男衆が大きな奉燈を狭い路地の軒をギリギリにかすめるように威勢よく担ぎ回します。

夕刻になると神輿の御涼み場所である「堂前広場」に6基の奉燈が勢揃いします。神事を終え、あたりが夕闇に包まれると祭りはクライマックスで、太鼓がドーンと打たれると、掛け声とともに奉燈が担ぎ上げられ「奉燈乱舞」が始まります。その勇ましさは、能登の荒海で鍛えられた男の迫力そのものです。漁師町の意地をかけ力強く乱舞する奉燈に、夜空の花火が彩を添えるとさらに大きな歓声があがります。

3. 家々の軒先をかすめて進む奉燈は迫力満点

狭い路地を「息を合わせて」通過させるため、「担ぎ手」である100人の男達の統制のとれた動きが重要となります。

丁度、東二区と一区で狭い路地が大きくクランクする地点を屋根上から眺めることができました。この地点は特に統制が必要な場所であり、威勢良い掛け声が漁師町に響き渡り、祭りの見どころの一つです。絶妙のタイミングで切り回し、颯爽と通過する奉燈もあるものの、殆どの奉燈がこのクランクを通過するのに苦心していました。

奉燈の通る街はまちづくりにも配慮がなされており、軒をギリギリにかすめる奉燈を通すため、電線が道路を横切らないようにしてありました。また、写真でも見られる通り、ベランダの鉄格子には毛布を掛け、沿道の家々が担ぎ手に配慮していました。

行政も市民も、祭りを大切にしたまちづくりに徹底している様子を垣間見ることができました。

一基を100人で担ぐ奉燈に圧巻

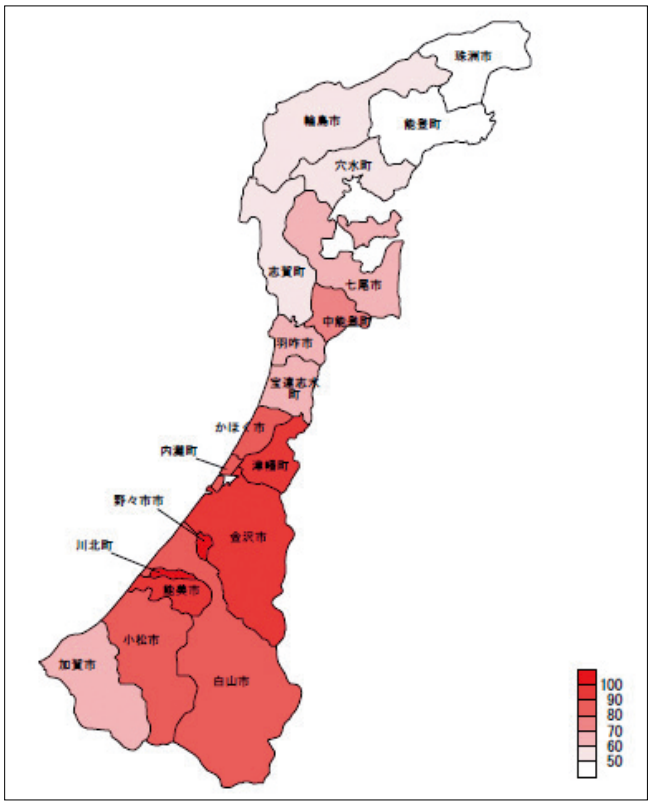
狭いクランクの通過「練り歩き」

4. 急激な人口減少と能登のキリコ祭り

能登のキリコ祭りは、特に奥能登を中心として、主に7月から9月に行われる祭りです。石崎奉燈祭りの様に100人もの担ぎ手を要する奉燈（キリコ）は少ないものの、奥能登地域の人口減少とともに、担ぎ手の工面が地域の大きな課題となっています。職場の同僚による助っ人、大学生の体験学習・アルバイトなどに頼らざる負えない状況の地区も多い様です。

平成25年3月に行われた国立社会保障・人口問題研究所が推計した石川県の30年後の将来人口推計によれば、2010年を100とした指数で石川県全体は83.3に対し、能登は57.9と大幅に減少、さらに奥能登地域は48.9と半分の人口となるものと想定しています。今後の大幅な人口減少による「キリコ」の担ぎ手の不足のみでなく、集落人口の減少により、集落自体の存続が危ぶまれる状況にあると言えます。

市町・地域	総人口		2010年を100とした指数
	2010年	2040年	
石川県	1,169,788	974,370	83.3
加賀	958,370	851,863	88.9
能登	211,418	122,507	57.9
南加賀	235,147	192,947	82.1
石川中央	723,223	658,916	91.1
中能登	135,960	85,618	63.0
奥能登	75,458	36,889	48.9



市町村別総人口指数（2040年）

平成15年7月に能登空港が開港し、日本航空学園の誘致、行政センターの合築、賑わい創出事業の実施など、空港開港を契機として能登地域振興に向けた様々な取組が進められています。また、平成23年6月には、能登の農業と暮らしが世界農業遺産に認定されています。

今年は、11の国と地域から39組のアーティストの参加による「奥能登国際芸術祭」（珠洲市）が9月3日より開催されています。9月14日からは芸術祭の一環として「奥能登珠洲の秋祭り」が開催される予定で、秋祭りの醍醐味の一つである「ヨバレ」を体験できる「珠洲秋祭りヨバレ体験ツアー」も企画されています。

「ヨバレ」とは、キリコの担ぎ手に精を出してもらうために、自宅において主人が酒と食事をふるまうものです。珠洲市のみでなく、能登地域では「ヨバレ」が多くの地域で行われています。担ぎ手の他に親戚、友人、知人を御前料理でもてなし、祭りの賑わいをさらに高めています。私が「石崎奉燈祭り」に呼ばれて、漁師町の美味しい料理でもてなして頂いたのも「ヨバレ」のように思われます。

今後、能登地域の人口減少はさらに進んでいくものと思われますが、能登の「バラエティに富む観光資源」の中でも極めて稀な祭礼である能登のキリコ祭りを、どの様にして守り、生かして行くかが重要と考えます。

ちょっと気になるコーナー

新潟県県央の地場産業体験と観光

中越トラベル（朝日交通㈱観光部）　常務取締役　山崎康裕

弊社の場所をご存知でしょうか？

弊社は、新潟県三条市と言う町に観光部があります。新潟県は「上越」「中越」「下越」と大きく３つに分けられており、三条市は中越地区になります。弊社の社名にあるように元々は、中越地区の加茂市が親会社の発祥の地で、弊社グループ企業は、基本的に「中越」と言う文字が入っています。今後ともよろしくお願い致します。そこで、今回は新潟県中越地域をご紹介いたします。

中越地域の三条市や燕市は、古くから金属加工が盛んで、弥生時代の遺跡から出土した「鉄斧」など鉄製品が多く利用されてきました。この流れは、現在でも脈々と伝承されています。様々な方向に発展して参りましたが、「和釘」「鎚起銅器」「研磨」に絞って体験できる観光をご紹介いたします。

中越地域の地場産業【和釘】

明治時代に入って洋釘が輸入され、和釘の需要は大きく減りましたが、その苦境をバネに職人たちは多様な金属加工の道を進むことになりました。和釘も脈々と受け継がれ、伊勢神宮の20年に一度の「式年遷宮」で、平成５年に続き平成25年の際にも、和釘約20万個、野鉄金物約８万個を納めております。「三条鍛冶道場」で、和釘製作体験やペーパーナイフ製作体験が出来ます。

三条鍛冶道場

ペーパーナイフ製作体験

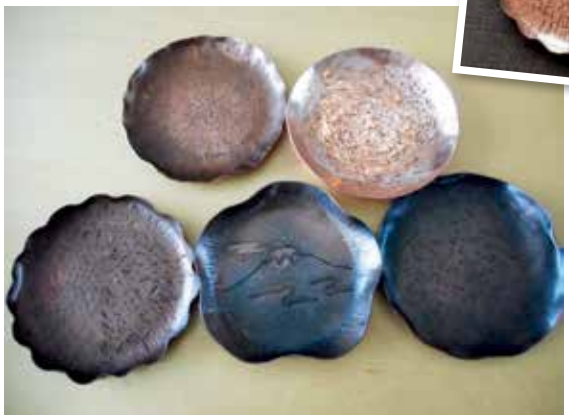
中越地域の地場産業【金属加工】

隣の町の燕市は、和釘から発展し銅器（鎚起銅器）、キセル、洋食器など様々な金属加工が受け継がれています。現在では、金属洋食器は世界が認める産地となりました。燕市産業史料館には、和釘、キセル、スプーンなどが展示されています。

中越地域の地場産業【鎚起銅器】

鎚起銅器は、１枚の銅板を繰り返し打ち縮め、茶器などを形作っていきます。この製品には継ぎ目がなく、熟練の職人が作る伝統工芸品です。有名な鎚起銅器は、1816年創業の「玉川堂」と言う老舗があります。第六代当主の実弟の玉川宣夫氏は、平成22年に人間国宝に認定されております。（現当主：第七代）燕市産業史料館では、不定期ですが鎚起体験が出来ます。

鎚起体験



匠小皿

中越地域の地場産業【研磨】

燕市は金属表面処理業も盛んで、1970年には全国の25%の業者がありましたが、円高不況や人件費の安い海外への工場移転などで衰退してきました。これに危機を感じた「燕商工会議所」は、研磨業の共同受注システム「磨き屋シンジケート」を2003年に発足させ、大口受注を図るとともに、製品開発から製造、研磨や製品化を一連のビジネスとし、世界レベルの高度な研磨技術を武器に世界進出を果たしました。現在では、エコビアカップやマグネシウム製パソコン天板ミラー仕上げ、ジェット機主翼研磨など様々な分野に進出しています。燕市磨き屋一番館では、ビアカップ磨き体験も出来ます。

工場での磨きの工程

ビアカップ磨き体験

中越地区の観光地

体験だけではありません。近くには「越後一ノ宮　彌彦神社」、良寛ゆかりの名所（国上寺、五合庵、良寛史料館など）も多く、観光には事欠きません。温泉地も「弥彦温泉」「岩室温泉」などがあり、ゆっくりくつろぐこともできます。お土産を買うには、燕三条地区で製造されるメーカーのアウトレット専門店「ストックバスターズ」や、包丁メーカーのギャラリー「藤次郎ナイフギャラリー」、海産物なら「寺泊魚市場」などがあります。

さらに忘れてはならない名物があります。新潟県はラーメン王国と言われますが、燕市には新潟5大ラーメンのひとつ「背油ラーメン」があり、三条市にはもうひとつの「カレーラーメン」があります。是非一度は、召し上がってみてください。

背脂ラーメン

カレーラーメン

※燕三条ラーメン王国お遍路マップもあります。
http：//www.made-in-tsubame.jp/ra-men/
※各施設での体験、休館日などは、ホームページを参照ください。

アクセス

JR	上越新幹線・燕三条駅で下車してタクシー、バス、レンタカーをご利用ください。 （タクシー、観光タクシーのご用命は、中越トラベルまたは中越交通㈱へ）
自動車	北陸自動車道・三条燕インターで降りて、各地へ。

是非、中越トラベルのある中越地区へ遊びに来てください！

【写真提供】　一般社団法人燕市観光協会　燕市産業振興部商工振興課観光振興室　三条市経済部営業戦略室観光係

お知らせ

道路橋メンテナンス技術講習会報告（新潟会場）

〈技術部会　橋梁委員会〉

1. はじめに

このたび、全国建設研修センター及び建設コンサルタンツ協会が主催するサテライト講習会に参加させていただきましたのでご報告いたします。

本講習会では、道路橋の「道路橋の法定点検に必要なメンテナンス技術の習得」を目的として開催されたもので、道路橋が抱える課題や点検に関する関連する法令、橋梁の基本構造や定期点検に関わる基礎事項について説明がありました。また、最終日には現場実習が行われ、実橋を用いた損傷程度の確認と評価方法等について細かい指導が行われました。

2. 技術講習会の概要

平成29年度「道路橋メンテナンス技術講習」時間割

日時		時間	教科目	講師
5月30日（火）	10:20～10:50		受付	一般財団法人 全国建設研修センター
	10:50～11:00		講習についての説明	
	11:00～12:00	1.0	道路構造物をめぐる今日的課題と今後の方針	国土交通省　道路局　国道・防災課　企画専門官　森下博之
	12:00～13:00		昼　休	
	13:00～14:00	1.0	点検に関する法令及び技術基準の体系	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　橋梁研究室　主任研究官　桑原正明
	14:10～15:40	1.5	橋の構造の基本	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　橋梁研究室　主任研究官　桑原正明
	15:50～18:50	3.0	鋼部材の損傷と診断	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　橋梁研究室　主任研究官　澤田　守
5月31日（水）	8:30～9:00		受付	一般財団法人 全国建設研修センター
	9:00～12:00	3.0	コンクリート部材の損傷と診断	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　橋梁研究室　主任研究官　澤田　守
	12:00～13:00		昼　休	
	13:00～14:00	1.0	下部構造の損傷と診断	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　構造・基礎研究室　主任研究官　西田秀明
	14:10～15:10	1.0	支承・付属物等の損傷と診断	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　構造・基礎研究室　主任研究官　西田秀明
	15:20～16:50	1.5	定期点検の実施と記録	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　橋梁研究室　室長　白戸真大
	17:00～18:00	1.0	付属物の定期点検要領概論	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　橋梁研究室　室長　白戸真大
	18:10～19:10	1.0	土工構造物の構造の基本	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　構造・基礎研究室　室長　間渕利明
6月1日（木）	8:30～9:00		受付	一般財団法人 全国建設研修センター
	9:00～10:30	1.5	シェッド・大型カルバート等の定期点検要領概論	国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部　構造・基礎研究室　室長　間渕利明
	10:40～11:50	1.0	確認試験（専門講義）説明10分含む	一般財団法人 全国建設研修センター
	12:00～13:00	1.0	現場実習事前説明	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
	13:00～14:35		昼休、現場実習会場移動	
	14:35～14:50		現場実習受付	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
	14:50～15:05		現場実習における注意事項説明等	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
	15:05～17:35	2.5	現場実習・講評	国土交通省
6月2日（金）	8:30～8:45		受付	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
	8:45～10:15	1.5	実技試験	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
	10:25～11:15		現場実習資料とりまとめ・アンケート記入	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

※札幌会場・広島会場は、現場実習および実技試験の時間が異なります。

3. 専門講義の概要

専門講義の概要を以下に示します。

（1）道路構造物をめぐる今日的課題と今後の方針

この講義を受け、我が国の橋梁の実態、老朽化対策が必要となった背景や課題、その後に定められた省令や技術基準の経緯について説明されました。

＜主な講義内容＞

1）道路インフラの現状

・全橋梁約73万橋のうち約52万橋が市町村道
・一部の構造物で老朽化による変状が顕在化
・地方公共団体管理橋梁では近年通行規制等が増加

2）老朽化対策の課題

・直轄維持修繕予算は、平成28年度に平成16年度の水準に回復
・町の約3割、村の約6割で橋梁保全業務に携わっている土木技術者が存在しない
・地方公共団体では遠望目視による点検が多く、点検の質に課題が残る
・最低限のルールや基準が確立しておらず、またメンテナンスを回す仕組みもない

3）国土交通省の取り組み

・平成24年に起こった笹子トンネル天井板落下事故を受け、平成25年を「メンテナンス元年」と位置づけ、急遽、緊急点検・集中点検を実施
・橋梁、トンネル等は、国が定める統一的な基準により、5年に一度、近接目視による全数監視実施を義務付け

専門講義の受講状況

（２）点検に関する法令及び技術基準の体系

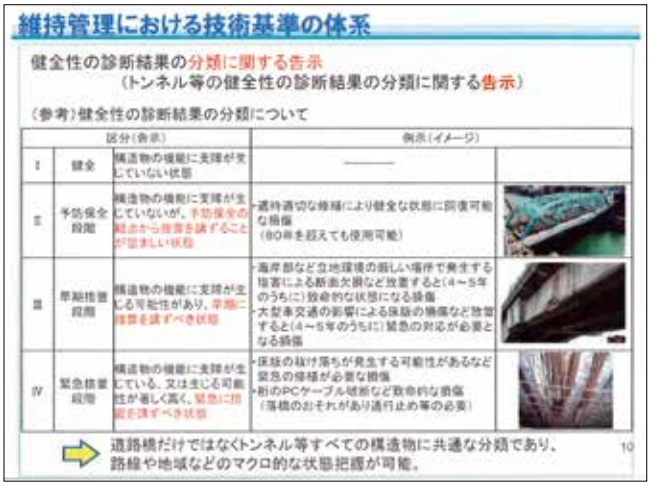
この講義では、定期点検として満たす条件、健全性の分類方法、点検方法（触診、打音検査、第三者被害予防等）について説明されました。

＜主な講義内容＞

１）維持管理における技術基準の体系

点検方法は以下の４つの条件が少なくとも満たされるものでなければならない。

・必要な知識と技能を有するものによること
・５年に一度の頻度で行われること
・近接目視によること
・健全性の診断を行うこと（分類は下表）



維持管理における技術基準の体系

２）点検方法

・定期点検は基本として全ての部材を近接目視して、次回の定期点検（５年程度以内）までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得るために行う
・遠望目視では見逃しや誤認のリスクが発生するため、必ず近接点検を行う

定期点検の方法

（３）橋梁の構造、各部位の損傷と診断

この講義では、鋼部材・コンクリート部材の損傷とそのメカニズム、診断方法について事例を確認しながら説明されました。

＜変状と診断の一例＞

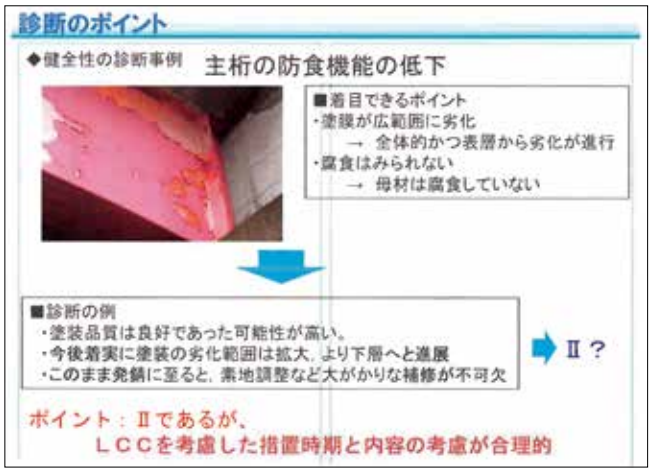
鋼部材、コンクリートの変状・損傷と診断例

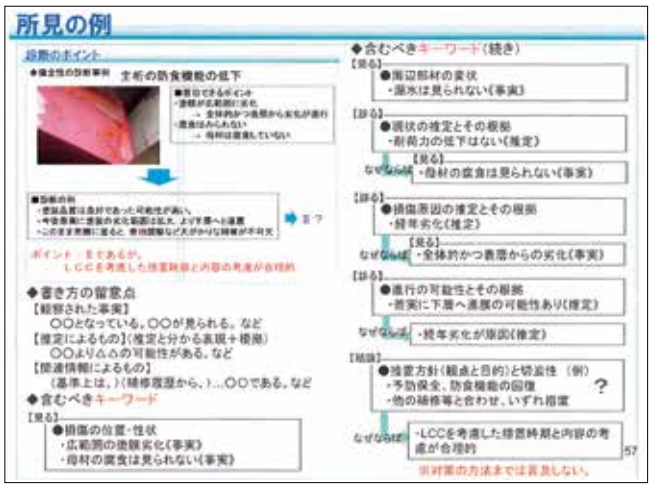
（4）定期点検の実施と記録

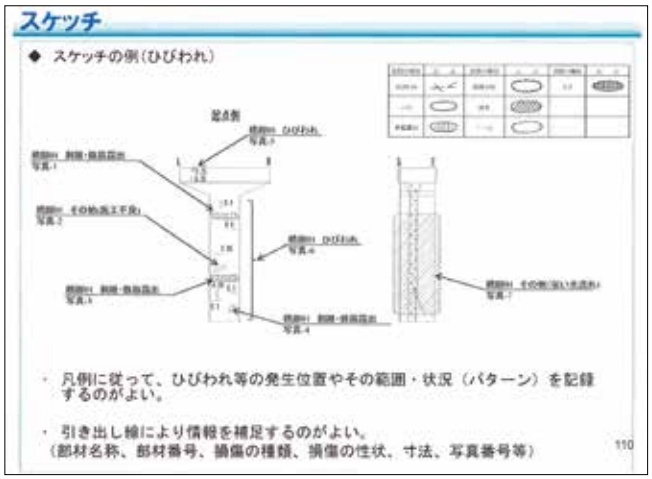
この講義では、定期点検の着目点、診断のポイント、記録方法等の留意事項について説明されました。

＜主な講義内容＞

健全性の診断の根拠となる項目は、当該区分に分類した判断の根拠や考え方・留意すべき点を所見として残すのが良い。また、第三者が見ても、写真と所見の内容が一致しており、診断の理由を把握できるように心がける。







診断のポイント、所見の例、スケッチの例

4. 現場実習

最終日は、国道116号東部幹線水路橋（下り）を会場として、点検の実体験と点検方法の指導が、行われました。現場実習を受け、点検結果から理論付けて適切に健全性について判断することが重要であることの説明がありました。

＜主な実習内容＞

- 高所作業車を用いた床版ひび割れ、及び鋼部材の損傷（腐食、防食機能の劣化）に関する目視点検
- 橋台に発生したひび割れ幅、うき部分の打音検査
- 各種点検結果から記録様式への記入方法と診断結果の書き方（事実と推定の表現方法の違い）
- 変状の観察事実、現状、変状の原因、変状の進行拡大の可能性、周辺部材に与える影響、次回点検までの措置に関する説明・部材単位、道路橋毎の健全性の診断方法

診断用メモ用紙の記載事項

【診断結果】

・診断結果と区分
　診断区分
　変状の種類
　部材の現状（機能・強度・剛性の低下度合い）の推定
　次回点検までの損傷の進行・拡大の可能性の推定
　次回点検までの間の措置方針

【診断の理由】

・部材の役割や応力状態、損傷位置、損傷程度の大小、広がりの相互関係
・損傷の原因の推定
　損傷要因（例えば、漏水、塩化物の飛来等）の有無

【診断の理由の理由】

・関連する性状（漏水の有無、振動の有無等）
・周辺及び同種部材の変状
・周辺状況（環境条件、交通条件、過去の補修痕跡）

診断用メモ用紙の記載事項

現場実習の全体説明

高所作業車による点検状況（張出床板）

高所作業車による点検状況（主桁）

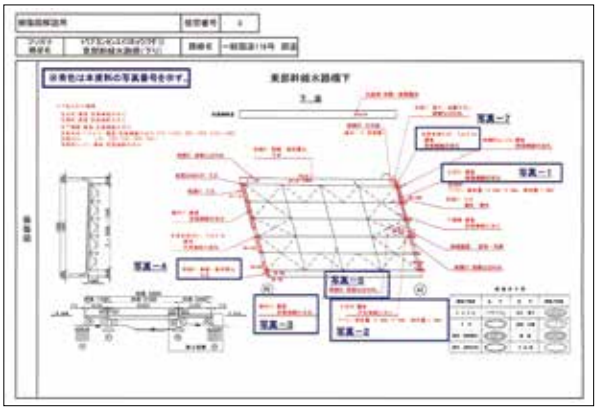
打音検査（橋台）

コンクリートひび割れ計測（橋台）

5. 確認試験

学科試験ではテキストを元に専門講義に関する内容について幅広く100問が出題されました。また、実技試験では現場実習で講義を受けた損傷状況や健全性の判断、その根拠等に関して出題されました。

実技試験終了後は、現場実習の損傷図記載例と状況写真が配布されました。受講者は、解説を聞きながら各自で作成した損傷図と配布資料を整合し、点検結果に漏れや間違いが無いかを確認しました。



損傷図記載例（配布資料抜粋）

配布資料の解説

6. おわりに

専門講義では、道路構造物の現状、点検の法令、各部材の損傷・診断・原因や留意点等を幅広く習得することができ、また現場実習では高所作業車に乗り直接見て触れて説明を受け、テキストからでは判断できないような腐食やひび割れなどの損傷状況を把握することができました。

本講習は4日間という短い期間でしたが、講義・実習・試験と大変有意義な講習内容でした。受講者の皆様には、今後はさまざまな現場で経験を積み、良好なインフラの長寿命化に貢献して頂ければと思います。

参考文献

1）平成29年度 道路橋メンテナンス技術講習【（財）全国建設研修センター・（一社）建設コンサルタンツ協会】

2）平成29年度 道路橋メンテナンス技術講習 現場実習事後配布資料【（一社）建設コンサルタンツ協会】

お知らせ

平成29年度 石川地区社会貢献活動
～白山国立公園・外来植物除去作業に参加～

〈石川事務所〉

1. はじめに

当協会CSR活動の一環として、平成18年度（県単独では平成16年度）より続く、石川県白山自然保護センター・NPO法人環白山保護利用管理協会主催の「白山国立公園外来植物除去作業」に今年も参加しました。

開催当日は、曇り空の天候で時折り冷たい雨が降る中での作業となりました。参加者は北陸支部会員の社員及び家族46名を含む、総勢124名が参加し、休日の午後1時半から2時間に渡り作業に汗を流しました。

市ノ瀬の除去作業風景

2. 白山国立公園の概要

白山国立公園は、富山県・石川県・福井県・岐阜県の4県と、白山市・南砺市・勝山市・大野市・郡上市・高山市・白川村の6市1村にまたがる標高2,702mの山岳自然公園で、富士山、立山と共に日本三名山（日本三霊山）の1つとされています。

また、白山は積雪量が多く、高山植物の宝庫として知られる山頂部、広大なブナの原生林の広がりとそこに生息する多くの野生動物、深い谷間から山ろくにかけて数多く噴出する温泉群など、類い希な環境を呈し、また、古くから信仰の山として親しまれております。

さらに昭和55年（1980年）には、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目指す取り組み「ユネスコエコパーク」に指定されるなど、白山は国際的にも高い評価を受けています。

3. 白山における外来種の問題

近年、登山客の増加に伴い、外国原産の植物や低地性の植物等、日本原産であっても本来白山国立公園に生息していない植物（以下、外来植物）の分布が人の活動によって拡大しているという問題が発生しています。

これを放置すると、元々生えている高山性の植物の生育を阻害してしまうだけでなく、近縁な高山植物と交雑し雑種ができてしまうという危険性があります。実際の研究でDNA解析などにより、外来植物のオオバコと在来種のハクサンオオバコの雑種ができてしまっていることが明らかになっています。

白山山頂と白山神社奥宮（室堂より）

4. 外来植物の除去作業について

（1）目的と内容（オオバコの除去作業）

外来植物の侵入を食い止めるため、登山口である市ノ瀬園地の駐車場周辺に生育するオオバコの除去作業が行われています。

この除去作業を実施することにより、市ノ瀬の駐車場を利用する登山客の靴に種子が付着しないようにする目的があります。

駆除方法については、白山自然保護センターの平松専門研究員がイラストを交えた資料で分かりやすく説明されました。

駆除方法の説明風景

説明を受ける参加者

除去方法としては、「根切り」という除草道具を用いて、オオバコの地上部のすぐ下にある生長点という部位から上を除去します。そこを切除すれば翌年芽を出すことがなく、土を掘り返さないので、山岳地域の貴重な土壌の保全にも配慮しています。

（2）当日のスケジュール

当日は、下記のスケジュールで除去作業が行われました。

日時：平成29年6月25日（日曜日）
場所：市ノ瀬駐車場周辺（白山国立公園内）

＜タイムスケジュール＞
12：30　受付開始
13：00　挨拶、説明、除草作業
15：00　休憩（オオバコ茶試飲）
15：15　作業終了　挨拶

（3）オオバコ茶の試飲

作業の休憩時に「オオバコ茶」の試飲が行われました。このお茶は、前もって市ノ瀬で除去されたオオバコを使って手作りで作られたお茶です。

（4）バイオトイレの設置

NPO法人環白山保護利用協会の正会員である「中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社 金沢支店」様のご協力により「バイオトイレ」が特設されました。

このバイオトイレは、水を使わず、おがくずを使用してバクテリアの力で排泄物を分解し、快適かつ無臭であり環境に配慮された循環型社会にふさわしいトイレです。「白山百万貫岩」展望広場にも設置されており、災害時にも活用されています。

排泄物を分解した使用後のおがくずは、最終的に堆肥として有効利用することができます。

特設バイオトイレカー

5. おわりに

今回は、作業途中に天候が悪化したため、予定よりも少し早く作業を中止しました。結果としては、46.6kgのオオバコを除去し、参加された皆様はすがすがしい笑顔でお帰りになりました。

最後に、この外来植物除去活動を通じて、白山の豊かな自然を守ることの大切さを学ぶことができ大変有意義な内容だったと思いました。また、多くの協会員がこの活動に参加することで、地域の皆様から信頼され、評価される協会を目指していきたいと感じました。協会員各位の更なる協力、参加を宜しくお願い致します。

お知らせ

たのしく学ぼう
ふるまち防災フェスタ

〈広報部会〉

1. はじめに

平成29年6月10日（土）、新潟市中央区古町6・7番町（古町モール）において、「ふるまち防災フェスタ」（主催：にいがた防災アクション2017実行委員会）が開催されました。新潟地震発生日直前の休日に、災害時に役立つ情報、商品の紹介、災害疑似体験などのイベントを開催することで、防災について学び、考える機会を創出し、市民の防災意識向上を図ることを目的として、数多くの団体が出展しました。

2. 出展ブース概要

我々、建設コンサルタンツ協会北陸支部は「災害に備える」「自然と共に生きる」「快適で住みやすいまちづくり」「古くなった社会資本を活かす」など、建設コンサルタントの仕事について、パネルを展示しイベントに参加しました。また、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、石川県能登半島沖地震、新潟福島豪雨の災害事例をもとに復旧状況と建設コンサルタントの役割について紹介させていただきました。

出展ブースの様子

白バイに乗って

消防車がたくさん

救助に出動

大雨を再現

3. その他の出展団体

我々建設コンサルタンツ協会北陸支部のほか、NTT東日本新潟支店、クリクラ亀田、KuruCo（総合生協の宅配）、KDDI、コープにいがた、国土交通省北陸地方整備局、コメリ防災対策センター、東北電力新潟営業所、新潟県、新潟県警察、NICO（にいがた産業創造機構）、新潟市消防局、新潟市水道局、新潟大学災害・復興科学研究所、NEXCO東日本、北陸ガスが出展しました。地震の揺れを体験できる起震車や、大雨の状況を再現する降雨体験装置など実際に災害を体験できるブースが多数展示され、ステージイベントや、ゆるキャラたちとのクイズ大会など防災について楽しく学べるイベントが盛りだくさんでした。

ゆるキャラたちとクイズ大会

4. おわりに

近年の地震や水害など、自然災害が多発していることで、建設コンサルタンツ協会北陸支部の展示ブースには、多くの親子連れにお立ち寄りいただき、アンケートにご協力をいただきました。

親子で建設コンサルタントの仕事を知ってもらういい機会になりました。

ミニコンサート

お知らせ

おやこで見学会

〈広報部会〉

平成29年８月19日（土）建設コンサルタンツ協会北陸支部恒例の「おやこで見学会」を開催致しました。今年も例年と同様に、船に乗って信濃川や萬代橋を眺めながら、施設の機能や建設コンサルタントの関わりなども知ってもらうことを目的に関係機関と連携しながら開催しました。

＜概要＞

日　時：平成29年８月19日（土）　9：00～11：40
場　所：信濃川、萬代橋、万代クロッシング
参加者：11組22名（保護者11名、子ども11名）
※当日、１組（３名）欠席
共　催：北陸地方整備局信濃川下流河川事務所
北陸地方整備局新潟国道事務所
新潟市
後　援：新潟県　新潟商工会議所　新潟日報社
ミズベリングやすらぎ堤研究会

＜スケジュール＞

9：00～　ばんだい丸発着所前の広場に集合
9：05～　挨拶・本日のスケジュールなど
9：15　乗船開始
9：30～　出発
・建設コンサルタントや信濃川などのお話
10：20　到着・休憩
10：45　万代クロッシングにて説明
・新潟市のまちづくり
・液状化の実験
・萬代橋のお話とアーチ構造の体験
11：40　アンケート記載・終了

寺本支部長による開会の挨拶

参加案内・申し込み状況

例年、市報にいがたによる掲載、新潟市役所本庁・区役所・公民館でのチラシ配布、支部HPでの案内等により情報発信していました。このうち、最も影響力のある市報にいがたでの掲載が８月６日と遅くなったことから、チラシ配布場所は図書館を含めて広く配布し、目に触れる機会が多くなるように配慮しました。

その結果、21組46名という過去最多の申し込みがあり、厳正なる抽選の結果、12組25名の参加者となりました。また、当日、早朝の雨模様により、１組（３名）の欠席がありましたが、11組22名の参加者で開催いたしました。

なお、例年、参加者の大半は市報による情報入手でしたが、11組の参加者のうちチラシを見て参加した方は５組おり、例年とは異なる傾向であったことが確認できました。

雨が降っている中での乗船ですが“ワクワク”です

見学会の様子

当日は早朝から雷が鳴る雨模様でしたが、集合時間近くから小雨となり、無事に見学会をスタートすることができました。

小雨であったため、乗船前に寺本支部長から挨拶、佐々木広報部会長から乗船にあたっての留意点を説明してもらい、屋形船「ばんだい丸」に乗船しました。

船内では、建設コンサルタントの動画を流すとともに、佐渡汽船の旋回の様子を見ながら出航しました。

髙橋広報委員長から、簡単に建設コンサルタントの仕事内容を説明した後、やすらぎ堤の役割、信濃川に生息する生物、八千代橋での新潟地震の痕跡などについて

国土交通省信濃川下流河川事務所の松井事業対策官からわかりやすく説明していただきました。船内では、佐渡汽船の旋回の様子を近くで見学したり、萬代橋の裏側や八千代橋の曲がった杭などを目にしたり、さらには船から見るミズベリングの様子など、参加した子どもや保護者は熱心にカメラを向けていました。

信濃川の治水・利水・環境に関する説明

普段なかなか目にしない様子を見て興味津々の参加者

「ばんだい丸」による信濃川の周遊が終わった後、船から降り、歩いて萬代橋を渡り万代クロッシングまで移動しました。

万代クロッシングまで歩いて移動

万代クロッシングでは、新潟市まちづくり推進課の西野主査から新潟市が行っているミズベリングなど、まちづくりに関する取り組みを説明してもらいました。

新潟市のまちづくりに関する説明

北陸支部からは、今年度、新たな取り組みとして土粒子の間隙比に関する実験、液状化により杭がある場合と無い場合における影響の違いについて模型等を用いて実験しました。この実験は、予想以上に子どもや保護者に興味を持って参加してもらうことができました。

積極的に参加する子どもや保護者

続いて、国土交通省新潟国道事務所の本島技官から萬代橋の説明をしてもらうとともに、アーチ構造の組み立てや強さの体験をしてもらいました。アーチ構造の強さの体験は、昨年と同様に今年も人気があり、順番待ちするような状況となりました。

新潟国道事務所による説明

アーチ構造の体験

最後に、寺本支部長から閉会の挨拶をしてもらい、解散となりましたが、解散しても液状化の実験に夢中になる子どももおり、盛況の中、事故なく、全ての予定を終了することができました。

寺本支部長による閉会の挨拶

終わっても実験に夢中

全員で記念撮影

見学会では、終了時に小学生と保護者それぞれにアンケートを実施しました。全体的には、良かったという結果が得られたと思います。また、後日、参加者の親からお礼の連絡をいただくなど、今回の取り組みが参加者にとって思い出に残るものであったと感じました。主催者側としては、アンケート結果から建設コンサルタントという仕事を少しでも知ってもらえることができた良い機会になったと考えます。

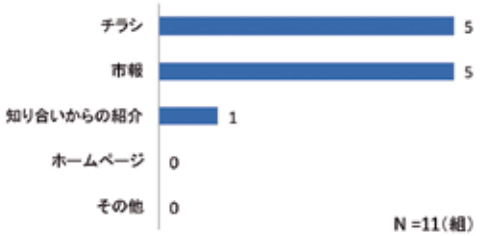
今後も、参加者の満足度を得ながら、私ども建設コンサルタントの理解を促したり、担い手の確保につながる場の一つにおやこ見学会を位置付けて取り組んでいきたいと感じた次第です。

最後になりましたが、本見学会開催にあたり、北陸地方整備局信濃川下流河川事務所、同新潟国道事務所、新潟市、ばんだい丸など、多くの皆様に多大なるご協力を頂きました。本誌面をお借りして感謝申し上げます。

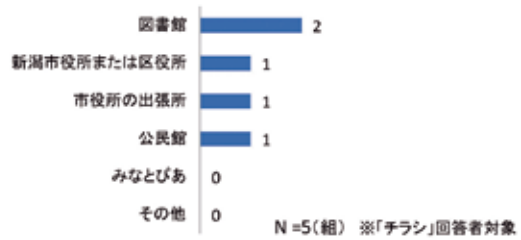
平成29年度　親子で見学会　アンケートまとめ

実施日時：平成29年8月19日(土)9:00～11:40
参 加 者：11組　22名(子ども･保護者ともに11名)　＊当日1組(3名)キャンセル
回 答 者：22名（子ども･保護者ともに11名）

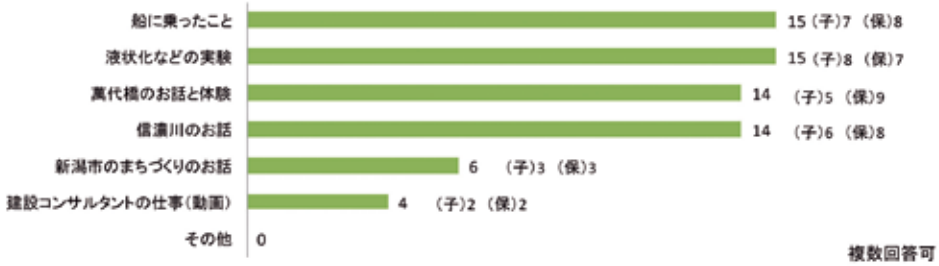
質問1「おやこ見学会」を何で知りましたか。



質問2 ちらしはどこでお手に取りましたか？



質問3 印象に残ったのは？



質問4　お友達やお知り合いに伝えたいと思ったことはありましたか？（自由記述）

【子ども】
- 身近なものでなかなか知られていない萬代橋の歴史をお友達に伝えたいなと思います。
- 萬代橋のアーチ状のつくりが強いことがわかった。
- 萬代橋の強さ。
- 萬代橋について。
- 萬代橋の歴史について。
- 船に乗ったこと。
- お友達が増えてよかった。

【保護者】
- 船に乗って橋の裏側を見ることができて、それぞれ違いがわかった。
- 色々なお話を聞けて楽しかった。
- 船からの景色。
- 日本橋の次、2番目2004年、国の重要文化財のこと。
- 萬代橋のお話。
- 萬代橋の歴史の話を伝えたい。
- 萬代橋の歴史、萬代橋から下流は海！
- 建設コンサルタント、国土交通省の役割。
- こんな仕事(土木･コンサル)があるということ。街の施設の役割→子どもたちへ伝えたい。

質問5　その他、要望などありますか？(自由記述)

【子ども】
- 楽しかった。
- ありがとうございました。
- また参加したい。
- 萬代橋の下を通りました。

【保護者】
- 初めて新潟市や萬代橋について知れたことが多く、参加して良かったです。
- 普段、何気なく通っている萬代橋について学べてよかったです。
- お昼を船の中で食べれたら楽しそうですね。
- 4つの橋でも構造が違うことが良くわかった。
- 貴重な体験ができました。社会資本や建設に対する活動を今後も続けていっていただきたいと思います。ありがとうございました。
- 実験は、子どもがとても興味を持ち良かったです。
- 液状化は楽しそうにしていました。大人もおもしろいと思います。
- 参加できて良かったです。勉強になりました。ありがとうございました。
- 次回があれば次回もぜひ参加させていただきたいです。
- また参加したいと思います。
- 子ども(小2)には少し長い？

お知らせ

平成29年度 道路・トンネル技術講習会報告「ラウンドアバウト・トンネルCIM」

〈技術部会　道路委員会・トンネル委員会〉

1. はじめに

協会員の知識の習得と、技術者の継続教育を目的として、平成29年８月４日（金）午後１時30分より、富山県民会館において「道路・トンネル技術講習会」が開催された。参加者は47名であった。

講習会場の様子

2. 講習会プログラム

第１部講演

①「**特別豪雪地帯山形県長井市におけるラウンドアバウト社会実験事例の紹介**」

セントラルコンサルタント株式会社
東北支社　技術第一部
道路第二グループ
奥城　洋　氏

②「**全国の特徴的なラウンドアバウトの事例紹介**」

（一社）建設コンサルタンツ協会
技術部会　道路専門委員会
土井和広委員長
米山喜之委員
石村佳之委員
森藤敏一委員

第２部講演

「**トンネルCIMの現状と今後の可能性**」

前田建設工業（株）
土木事業本部　土木技術部　施工技術グループ
トンネル技術チーム　マネージャー　水谷　和彦　氏
土木事業本部
営業推進部
営業推進第1
グループリーダー
八木　基徳　氏

3. 講演の内容

各講演の概要を以下に記す。

3.1 特別豪雪地帯山形県長井市における ラウンドアバウト社会実験事例の紹介

（1）実験の概要

国土交通省の「平成28年度道路に関する新たな取り組みの現地実証実験」として、山形県長井市の市道交差点に仮設ラウンドアバウト（以下RABと示す）を設置し、雪にも着目した実験を行った。

RAB化の目的は交通安全対策であり、この実験の目的は本格運用の是非の判断と全国の多雪地への展開も視野に入れた課題抽出と対策立案を行うことである。

調査内容は、交通量および交通挙動調査、速度調査、アンケート調査、日常点検による調査、除雪作業の試行とアイカメラによるデータ収集である。

仮設RABの構造は、外径27m、環道幅員4.5m、エプロン幅員２m、路肩幅員1.0m、横断歩道１カ所、４枝交差点である。自発光タイプの安全施設、スノーポールなど降雪時の安全に配慮された。

（2）社会実験の結果

RAB化により速度が十分抑制でき、天候、路面の状態に関わらず安全性が向上する。問題挙動も確認されたが完成形にて対策が可能である。以上より、平成29年３月、本社会実験の協議会にて本格運用へ進むことが決定し、本年度中に完成形で施工する予定である。

3.2 全国の特徴的なラウンドアバウトの事例紹介

各事例の概要は以下のとおり。

長野県飯田市東町：バイパス道路の整備に伴い、郊外部からのアクセス道路が新たに接続するための交差点改良。地域住民から現状の機能の存続が求められ、５枝交差点でも運用が可能なRABの導入を検討。

東町RAB（飯田市HP）

長野県飯田市吾妻町：外径が大きい、道路幅員の差が大きい、接続道路の中心が一点に交わらないなど、構造上の問題があった既存ロータリーを改造して、RABに関する実道データの取得を目的に社会実験を行い（平成22年～平成23年）、RABの安全性が検証された。

山梨県富士川町：事故防止を目的に導入。供用前と供用半年後のビデオ調査と供用9ヵ月後のアンケート調査を実施した。大型車交通量が減少し、安全性が向上。追突事故、出合頭の事故が5件から0件（／6ヵ月）へ。平成28年3月に供用。

長野県安曇野市本村円：5枝交差点で交通が煩雑、かつ通勤通学の自転車が集中する。自転車用矢羽を連続配置した。今後、自転車用矢羽の効果検証が必要。マウンドアップを50cmとしたことから視認性、衝突リスクが課題。平成27年4月に供用。

滋賀県守山市立田町：出会い頭事故が多発しており、信号設置を含めた交通安全対策の要望があったが実現しなかった。平成25年10月～平成26年3月に社会実験を実施した。中央島の形状と修景の工夫が特徴である。平成27年4月供用。

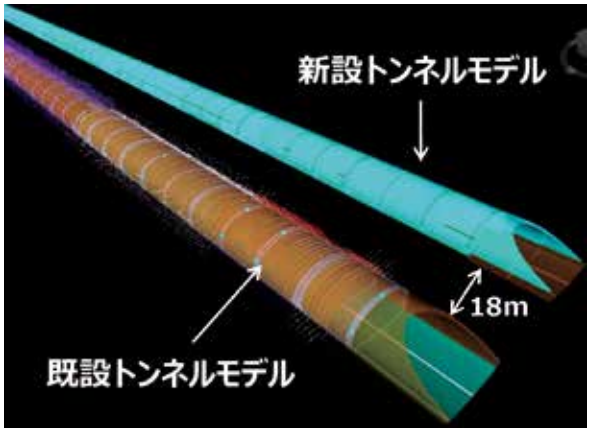
長野県軽井沢町借宿：複雑な変則T字交差点計画をRABにより整流化する。環道に拝み勾配の横断勾配を付したことと、5％勾配の道路にロードヒーティングを整備したことが特徴。平成30年に供用予定。

3.3 トンネルCIMの現状と今後の可能性

（1）トンネルCIM試行工事での取り組み

九州地方整備局筑豊烏尾トンネルCIM試行工事での取組を踏まえ、CIMモデル化、活用、効果および課題についてご講演いただいた。

構築したCIMモデルは、地質データの3次元推定モデル、既設の上り線トンネルの3次元モデル、新設する下り線トンネルの3次元モデルである。



トンネルCIMモデル

CIMモデルを用いて、FEM解析、施工管理、完成検査を行った。CIMモデルの利用効果は以下のとおり。

①情報の共有と把握：既設・新設トンネルの情報を把握することで施工前、施工中の予測が行えた。
②3次元解析との連携：地形・地質を考慮したFEM解析が効率的に行えた。
③情報の一元化：CIMモデルを目次として設計・施工情報の整理が行えた。

主な課題は、施工サイクルとモデル作成のためのデータ処理サイクルとのタイムラグおよび情報として表現したい事象とCIMモデルとの相性である。

（2）「CIM導入ガイドライン トンネル編」について

CIMガイドラインの位置づけ、CIMの概念、CIMモデル作成・利用・更新の流れ、トンネル分野における詳細度の定義、CIM導入により期待される効果、フロントローディングについての説明があった。

施工者側から設計者へ期待することは、調査設計段階での検討を深めることにより施工段階での手待ち、手戻り、トラブルを防止するフロントローディングであり、設計段階でCIMを活用することである。

（3）CIM導入で期待される効果と課題

切羽前方探査技術、探査結果の3次元モデル化、情報化施工推進による施工の自動化・ロボット化技術としてトンネル坑内ICTおよびIoT実現のための坑内無線LAN、コンピュータジャンボ、3Dスキャナーによる余掘り管理等が紹介された。

これらは高速施工に寄与するとともに、将来的には省人化、無人化施工に大きく貢献する。

トンネル坑内には様々な施工データが存在しているが活用しきれていない。CIMをデータの総合管理のプラットホームとして活用することが課題である。

3.4 トンネルCIMの活用事例

大和御所道路新田東佐味トンネルのうち、極めて脆弱な盛土の下を掘進する難工事区間をCIMの活用と頂節導坑からのパノラマ工法による薬注により乗り切った取組みについて、詳細な説明があった。

4. おわりに

第1部ではわが国においてはまだ希少なラウンドアバウトの事例および社会実験の取組みについて詳細な紹介があり、第2部ではトンネルCIMの取組み事例と併せて山岳トンネルの最先端技術等が紹介された。いずれも貴重で有益な講演であった。

多忙な中、資料を丁寧に作成され、遠方から御足労いただいた講師各位に心より感謝申し上げます。

お知らせ

社会貢献活動
ふるさと富山美化大作戦実施

〈富山事務所〉

ふるさと富山美化大作戦に参加して

富山市が主催する「平成29年度ふるさと富山美化大作戦」が平成29年8月20日（日）に開催され、私は建設コンサルタンツ協会員の14社22名の方々と共に参加いたしました。

当日は天気が良く、真夏の太陽に照らされながら、私は集合場所である富山駅北に向かっていました。道中、同じく「ふるさと富山美化大作戦」に参加している方々を見かけ、日曜日の朝7時前にもかかわらず、清掃を行っている方が多くいらっしゃることに驚き、自分たちの街をきれいに保つ意識の高さが伺えました。

本作戦の趣旨は、様々な企業・団体と市民の皆様が協働して清掃活動を行い、美しいまちとして全国に誇れる富山を目指して環境美化を推進することです。富山市中心部を幾つかのブロックに分け、各参加団体がそれぞれの担当地区を一斉に清掃します。私たちは、日頃より富山県内の社会インフラ整備に携わる団体（業界）として、また社会貢献活動の一環として参加し、富山駅北東部周辺の清掃を任されました。

清掃活動を始める前、担当の方から挨拶があり、例年ゴミはあまりないけれど頑張っていきましょう、と言っておられ、まさか駅に近いこのエリアで拾うゴミがないなんてことはないだろうと思っていました。しかし、いざ始まると本当に拾うべきゴミが見当たりません。一緒に参加していた他の方々もなんとか小さなゴミを見つけ、拾うというような感じでした。

私はここに、富山という街がどれだけ愛されているのか実感しました。駅周辺というと、きれいに見えても大概はゴミがある場所だと思います。しかし、富山駅周辺はまったくの例外です。富山を訪れた観光客の方々のマナーが良いということもあると思いますが、やはり地元の方々の愛情が多大であることで、これほど街が清潔に保たれているのだと感じることができた清掃活動となりました。

清掃活動

このような、人々から愛される街づくりができる建設コンサルタントは素晴らしい職業だと感じます。その上で、働き方改革と称した担い手の確保、若手技術者の育成、労働環境の整備・改善に取り組む必要があることも認識しなければいけません。

協会についてより広く認知してもらえるよう、今回の清掃活動では全員がJCCAのTシャツを着用しました。

協会のホームページやFacebookなどのSNSを通じ、建設コンサルタントが担う仕事内容や役割を紹介する動画「教えて！ケンコンさん」や、県内大学のオープンキャンパスへの出展などの広報活動をこれまで以上に多く実施し、建設コンサルタント業をより多くの方に認識してもらえるように今後も活動していくことが重要だと思いました。

清掃活動実施前に担当者の挨拶

清掃活動参加者で記念撮影

お知らせ

平成29年度 北陸支部防災訓練等の結果
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〈災害対策部会・総括部会〉

北陸支部では、「防災の日」である9月1日に、午前は北陸支部（以下、支部と略す）の防災訓練、午後は建コン協本部（以下、本部と略す）による災害時対応演習を実施しました。支部訓練は初動時の情報伝達、本部の演習は本部と各支部等の連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを検証するために取り組みました。

ここでは、午前に実施した北陸支部防災訓練を中心に整理します。

1. 北陸支部防災訓練について

新潟地区、富山地区、石川地区の3地区でそれぞれ実施。各地区では、初動時の情報伝達が適切に実施できるかを検証することを目的として実施しました。また、新潟地区では関係機関とも連携しながら取り組みました。

日時：平成29年9月1日（金）　8：40～11：50

場所：3地区でそれぞれ実施（新潟地区は北陸支部事務局とは別な会議室、富山地区は富山地区事務所、石川地区は石川地区事務所で実施）

連携した関係機関：
北陸地方整備局企画部防災課、
新潟県土木部監理課、北陸地質調査業協会、
（一社）全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会

新潟地区参集者：
支部長、副支部長、運営委員長、
災害対策部会、総括部会、広報部会の計12名

新潟地区支部訓練の様子 1

北陸地方整備局での打合せの様子

（1）プログラムと訓練のポイント

新潟地区での取り組みを以下に示します（富山・石川地区は、下記プログラムのアンダーラインで示した箇所以外は新潟地区と同様）。

（6:00　新潟県南西沖でM7.7の地震発生）
8:40　北陸地整から技術総括指揮者に支援要請が届く（電話）
技術総括指揮者・総括部会長で対応確認
8:45　支部長に、北陸支部への参集の必要性について確認、要請先に内容確認のために向かわせることを報告
・支部から要請先（北陸地整）へ記録係含めて出向く
8:50　関係者への参集連絡
9:30　北陸支部にて現地本部設置に関する協議
北陸地整からの情報を持ち帰り、その内容を報告
9:40　北陸支部にて「災害対策現地本部」を設置
①関係機関へのメールと電話による報告
②支部会員会社への災害対策現地本部設置のお知らせと被災対応依頼の可否についてメール・FAXにて連絡
10:40　支部長に1時間以内の返信状況を報告
11:40　支部長に2時間以内の返信状況を報告

【災害発生より90日経過を想定　平成29年12月1日】
11:50　災害対策現地本部の解散（支部訓練の終了）
・関係機関へのメール・電話による報告

【訓練のポイント】

①北陸地整企画部防災課に出向き、打合せを行う。
（災害協定に基づいた円滑な連携（情報伝達））
②昨年度の問題改善が図れるか確認する。
各社における災害担当責任者の対応、FAXによる返信待ちの有無など。

新潟地区支部訓練の様子 2

（２）訓練の事前周知により把握できた点とその対応

昨年度の訓練では、災害担当責任者（正）、（副）の役割の認識不足、会員会社への連絡先番号の違いなどの問題があったことから、今年度はそれら問題解決を図るために事前周知を実施しました。この事前周知の際に発生した事項とその対応を以下に示します。

①新潟営業所のFAX機不具合のため、訓練当日は本社にもFAXするよう要望あり。
　→本社にも送付
②災害担当責任者が異動するなどしたため、担当者の変更依頼あり。
　→変更後のメンバーで対応。
③災害担当責任者のメールアドレス（ドコモ携帯）ではメールの受信ができなかった。
　→受信可能なメールアドレスに変更してもらった。
④北陸支部からの通常メールは受信できるが、災害用メール（hrinfo@）からは受信できないことが確認された。
　→常時利用しているメールで発信。
⑤会社窓口の方が災害担当責任者を把握していなかった。
　→支部から責任者を伝達。

（３）訓練の結果

１）返信状況について

会員会社からの返信は、1時間以内での回答を求めて実施しました。今年度は、61社中、1時間以内返信は55社（90%）、2時間以内返信は計60社（98%）と、事前周知の効果もあり高い回答率でした。

	対象会社	手段	返信時間別の状況		小計	合計
			1時間以内	1時間を超え2時間以内		
新潟地区	42	メール	37	2	39	41
		FAX	1	1	2	
富山地区	11	メール	11	－	11	11
		FAX	（1）	－	（1）	
石川地区	8	メール	6	2	10	8
		FAX	0	0	0	
合計	61	－	55	5	－	60
			90%			98%

（　）内はメールだけでなく、FAXでも連絡があったことを示す。

※平成27年は、62社中、1時間以内返信は39社（63%）、2時間以内返信は計47社（76%）という結果。
※平成28年は、61社中、1時間以内返信は45社（74%）、2時間以内返信は計60社（98%）。

２）支部訓練で気がついた点など

各地区の主な状況を以下に示します。

【新潟地区】

①現地本部にてモバイルPCでメールの送受信を行っていましたが、無線接続が上手くいかなかったため支部事務局にモバイルPCを移動し、ルータに近い場所で無線により送受信確認を行いました。
②支部事務局からのFAX連絡は、送信完了するまでに1時間を要しました。
③パスワード設定によるメール連絡が4社ありました（開封に手間取る）。
④メール連絡による会社の中で、必要様式を添付せずメール文のみの回答をした会社が1社ありました。
⑤メール連絡した会社のうち、2回以上同じ連絡をしてきた会社が2社ありました。
⑥メール件名では社名の記載を義務付けましたが、メール連絡であった39社中4社は社名の記載がありませんでした。
⑦正、副の両者から、ばらばらに連絡が届いた会社が1社ありました。
⑧2時間経っても連絡がこなかった会社が1社ありました。
　→11：46（訓練終了6分後）にFAXが届きました。

＜1時間以内に連絡が届かなかった会社の理由＞

①メール、FAXとも確認できていませんでした。
②正、副とも電話連絡がつきませんでした。会社の電話番号で連絡を行い、副担当の方にやっと連絡がつきました。これから内容を確認するとのことでした。
③連絡内容について承知しており、対応について社内で確認中とのことでした。

【富山地区】

①FAX送信は、8分／10社（昨年は話中の会社があり15分を要した）。
②返信連絡は10：32に終了。
③メールの件名では、指定と異なる記載で返信した会社がありました（1社）。
④メール・FAXのどちらかで連絡すれば良かったのですが、両方で連絡をした会社がありました（1社）。
⑤指定様式に必要事項を記載せず、メール文中に記載してきた会社がありました（1社）。
⑥返信してもらうファイル名には、メール件名以外にも会社名も記載したほうが受け取る側が分かりやすくて良いのではないかという意見がありました。

【石川地区】

①今回は、事前案内を行っていたため、回答に要する時間が短縮されたと思われます。

②返信連絡は11：20に終了。
③回答は全てメールで行われ、FAXによる回答はありませんでした。また、回答者も各社の代表者1名から行われ重複はありませんでした。
④1時間を超えて回答した会社のうち、1社は正・副とも外出しており、携帯電話も不通でした。会社に連絡しても担当者以外対応できないとの回答であり、不在時の連絡体制が整っていませんでした。
⑤事務局からメール送信する際にメールアドレスの転記ミスがあり、会員会社からメール未着信の連絡（1名）がありました。

2. 本部災害時対応演習について

本部の演習を通じて気が付いた点等を以下に示します。

［第1ステージ］
①他支部からの着信確認や災害対策支部設置報告を行う際、対象者以外も含めて必要以上に広く連絡していた状況があった。
②災対現地本部設置報告のFAXは、13：10に届く予定であったが13：26に遅れて届いた。
③災対支部設置報告後の受信連絡は、災対現地本部からは届いたが災対本部からは届かなかった。

［第3・第4ステージ］
・特に問題はなかったが、本部から演習終了宣言を示したFAXは届かなかった（15：37に本部からメールにて終了宣言を省略したとの連絡が届いた）。

伝言ダイヤル確認状況

メール確認状況

3. まとめ

（1）北陸支部防災訓練について

①昨年度生じた問題点を踏まえて掲げた訓練のポイントは概ね問題なく対応できました。
②それでも、幾つか問題点が確認されたため、訓練の継続は大切。特に初動時の対応が重要であるため、引き続きこの点を踏まえて取り組みたい。

支部訓練の総評を伝える
寺本支部長

（2）本部災害時対応演習について

①災害対策本部から届くメールは開封確認を求めるものとなっていた。この機能がある中で、メール返信を別途行っていた。これは重複する対応であることからどちらか一方で対応しても良いと思われる。
②連絡系統では、対象者以外にも広く発信していたため、改めて、送信先を確認しながら、再度、訓練で確実なものにする必要があると思われる。

（3）非常食

昨年度と同様に、今年度も昼食では災害時に備えた非常食（レトルト食品）を食べて臨み、食事面での対応も体験しました。

昼食の様子

（4）関係機関との連携

今年度の支部訓練では、昨年度、台風10号の影響から連携した訓練ができなかった北陸地方整備局、昨年度と同様に連携できた新潟県と他2機関の計4機関と実施することができました。

特に、北陸地方整備局とは災害協定に基づき、電話による支援要請、要請内容の打合せなど、忙しい中、多大なる協力を得て実施することができました。

最後になりましたが、支部訓練では、北陸地方整備局企画部防災課、新潟県土木部監理課、北陸地質調査業協会、（一社）全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会の皆様にご協力を頂き無事終了することができましたこと、本誌面をお借りして感謝申し上げます。

みて、ふれて、知る 新技術・新工法

けんせつフェア北陸 in 新潟 2017

生産性革命を支える建設技術

開催日
平成29年 11月1日(水)・2日(木)
開催時間 9:30-17:00 9:00-16:00

開催場所
新潟市産業振興センター
新潟県新潟市中央区鐘木185-10

入場無料

★ 民間企業の新技術・新工法の展示・紹介
★ 北陸地方整備局・石川県・富山県・新潟県の事業・施策等を紹介

本フェアキャッチフレーズの"生産性革命を支える建設技術"を踏まえ、各企業等で開発した「i-Construction」技術に関して、分かりやすく紹介するために、体験型の展示・プレゼンテーションを行います。

14技術のプレゼンテーション
The"i-Con"ショー！

☆「i-Construction」技術に関する最新動向等を【参加型】【体験型】によるプレゼンテーションなどを行います。

日時 11月2日(木) 9:10～15:50

～グルッと体験「ICT」～
ICT特設展示

☆「みて、ふれて、知る 新技術・新工法」に沿い『体験』の機会として、屋外に体験型のICT関連特設展示会場を設置します。

日時 11月1日(水)常設展示
2日(木)常設展示

・ICTに踏み切れない未経験の建設企業の方々には、とても有意義な展示となっています。
・将来の担い手となる学生や若い技術者に建設現場の将来像を紹介します。
・工程順に周回・観覧することで分かりやすく、「みて、ふれて、知る」を体験・理解できます。
・ICT新規導入など気軽に相談出来る「活用相談コーナー」もあります。

37技術の展示技術を報告！
展示技術プレゼンテーション

☆展示技術をより多くの来場者に"知って"頂くための出展企業からのプレゼンテーションを行います。

日時 11月1日(水) 10:10～16:40
2日(木) 9:10～15:20

担い手確保!企業と学生のミスマッチを解消！
合同企業セミナー

☆「担い手確保」の一環として、地元（新潟県内）建設関連企業による情報発信、将来の入職促進および企業と学生の情報のミスマッチ解消のために「合同企業セミナー」を実施します。

日時 11月1日(水) 10:00～15:30
2日(木) 10:10～15:20

★ ★ ★ ★ ★
CPD/CPDS 認定プログラム
詳細はコチラから!

同時開催
2017建設リサイクル技術 発表会・技術展示会
日時 11月1日(水) 13:00～16:30

詳しくはホームページへ今すぐアクセス！【北陸技術事務所】 http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/
facebookも公開中！ URL https://www.facebook.com/fairhokuriku

平成29年度 建設分野の新技術・新工法の報告会

建設技術報告会

平成29年
開催日 11／28(火)
会場 朱鷺メッセ
（新潟コンベンションセンター）

○本報告会はCPD／CPDSの登録プログラムです

当日受付可

～建設分野に関する新技術・新工法などを発表します～

スケジュール

入場・聴講無料

受付	9:00～	
開会式	9:30～	第1会場〔2階スノーホールB〕
基調講演	9:40～	第1会場〔2階スノーホールB〕
		「生産性向上のカギはこれだ！」
		講師　杉浦 伸哉 氏
技術報告	10:50～	第1会場〔2階スノーホールB〕
		第2会場〔2階中会議室201〕
閉会式	16:20～	第1会場〔2階スノーホールB〕

基調講演 講師プロフィール

（公社）土木学会「土木情報学委員会、建設3次元情　報利用研究会、小委員会」委員WGリーダー」、
（一社）日本建設業連合会「インフラ再生委員会幹事、土木工事技術委員会副部会長、電力工事委員会WGリーダー」を努める。

すぎうら　しんや
杉浦　伸哉　氏

（株）大林組　土木本部本部長室 情報技術推進課長
大林組生産性向上チームを率い、平成23年から
CIM/i-Constructionの取り組みを進める。

報文など各種案内

http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/mijika/tecbox/936/

上記ホームページよりプログラム等の資料をダウンロードできます。

問い合わせ先　北陸地方建設事業推進協議会
平成29年度「建設技術報告会」実行委員会

（国土交通省 北陸地方整備局北陸技術事務所
〒950-1101 新潟市西区山田2310番地5
担当：技術情報管理官（保全）
：施工調査・技術活用課　技術活用係長）
TEL 025-231-1281 FAX 025-231-1283
E-mail hokugi-info@hrr.mlit.go.jp

主催：北陸地方建設事業推進協議会　平成29年度「建設技術報告会」実行委員会

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社／中日本高速道路(株)金沢支社
(一社)日本建設業連合会北陸支部／(一社)日本道路建設業協会北陸支部、(一社)新潟県建設業協会／(一社)富山県建設業協会
(一社)石川県建設業協会／(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部／(一社)日本建設機械施工協会北陸支部
北陸土木コンクリート製品技術協会／(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／北陸ＰＣ防雪技術協会
(一社)新潟県融雪技術協会／(一財)新潟県建設技術センター／北陸地質調査業協会／(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部
(一社)北陸地域づくり協会／(一社)日本橋梁建設協会北陸事務所

北陸支部活動報告

平成29年４月６日
北陸支部会計監査
場　所／北陸支部会議室
実施者／高堂支部監事、吉楽支部監事
立会者／高田運営委員長

平成29年４月６日
平成29年度第1回役員会
場　所／興和ビル会議室
議　題／平成28年度監査報告
第35回北陸支部定時総会議案について　他

平成29年４月18日
平成29年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第１回幹事会
場　所／長岡技術科学大学
出席者／渡邊技術部会長

平成29年４月19日
平成29年度北陸支部定時総会
場　所／新潟市内
総　会／第１号議案　平成28年度事業報告
第２号議案　平成28年度決算
監査報告
第３号議案　平成29年度事業計画
第４号議案　平成29年度予算
第５号議案　役員の選任
講演会／演題「建設界を取り巻く様々な情勢について」
講師　一般財団法人国土技術研究センター
業務執行理事　野田　徹　氏

平成29年４月27日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第１回協議会
場　所／北陸技術事務所
出席者／寺本支部長（代行 渡邊技術部会長）

平成29年５月８日
講師派遣
派遣先／金沢工業大学
派遣数／１名

平成29年５月９日
土木出張PRについて新潟県と打合せ
場　所／北陸支部会議室
出席者／新潟県　瀬戸道路建設課長補佐、
青木都市整備課長補佐、
石附政策企画員長
北陸支部　佐々木広報部会長、髙橋広報委員長、
松浦事務局長

平成29年５月９日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／富山県立大学
対応者／渡辺橋梁委員長

平成29年５月12日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成講習会（ME養成講座）
派遣数／１名

平成29年５月15日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／新潟大学農学部
対応者／佐藤建設環境委員長

平成29年５月15日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／新潟工科大学
対応者／真島品質向上委員長

平成29年５月16日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／新潟大学理学部
対応者／小見都市計画委員長

平成29年５月16日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／新潟大学キャリアセンター
対応者／小見都市計画委員長

平成29年５月17日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／長岡技術科学大学
対応者／神田道路委員長

平成29年５月19日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／長岡高等専門学校
対応者／須田河川及び砂防委員長

平成29年５月19日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場　所／石川高専環境都市工学科
対応者／木下道路委員

平成29年５月19日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成講習会（ME養成講座）
派遣数／２名

平成29年５月19日
講師派遣
派遣先／（一財）新潟県建設技術センター
派遣数／２名

平成29年５月19日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／津南町立津南中学校
対応者／今野広報委員

平成29年５月23日
平成29年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会
場　所／北陸地方整備局
出席者／佐藤建設環境委員長

平成29年５月23日～24日
CIMハンズオン講習会（本部主催）
場　所／新潟市内
内　容／サテライト講習・パソコンによる実習
参加者／12名

平成29年５月25日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／十日町市立下条中学校
対応者／高橋広報委員

平成29年５月25日
大学等PR活動（説明会）
場　所／金沢工業大学
対応者／今度トンネル委員長

平成29年５月30日～６月２日
平成29年度道路橋メンテナンス技術講習会（本部主催）
場　所／新潟市内
内　容／サテライト講習　座学
　　現場実習（東部幹線水路橋）
受講者／33名

平成29年６月１日
平成29年度建設技術報告会実行委員会
場　所／新潟国道事務所
出席者／高橋広報委員長

平成29年６月１日
新潟県土木部主催「技術管理関係説明会」
場　所／新潟県庁西回廊大会議室
出席者／渡邊技術部会長、真嶋品質向上委員長、
　　森品質向上委員

平成29年６月２日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会
場　所／金沢河川国道事務所
出席者／新家副支部長

平成29年６月10日
ふるまち防災フェスタ出展展示
場　所／新潟市内
内　容／パネル出展、PR動画放映　他
対応者／広報部会員５名

平成29年６月13日
建設産業マンパワーアップセミナー
場　所／新潟県庁
支部発表／竹内WGリーダー

平成29年６月14日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／新潟県立荒川高等学校
対応者／飯田広報委員

平成29年６月15日
会誌「雪の音」Vol.130号発刊
担　当／広報部会　会誌編集委員会

平成29年６月15日
北陸支部会員名簿（平成29年６月）発刊
担　当／広報部会　会誌編集委員会

平成29年６月19日
平成29年度第２回役員会
場　所／興和ビル会議室
議　題／協会本部運営会議報告　他

平成29年６月20日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／長岡市立北辰中学校
対応者／高橋広報委員長

平成29年６月21日
大学等PR活動（説明会）
場　所／石川高専環境都市工学科
対応者／藤本道路委員、木下道路委員

平成29年６月22日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会
場　所／北陸地方整備局
出席者／大平副支部長

平成29年６月22日
北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会
場　所／高田河川国道事務所
出席者／藤巻建設環境委員

平成29年６月23日
講師派遣
派遣先／インフラ再生技術者育成講習会（ME養成講座）
派遣数／１名

平成29年６月25日
北陸支部石川事務所社会貢献活動
白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除
場　所／白山国立公園
内　容／外来植物除去作業
参加者／46名

平成29年６月27日
第２回地山補強土工法他防災関連技術講習会（後援）
場　所／新潟市内
内　容／特別講演　南海トラフ連動地震を念頭に、
地盤力学の役割を考える
講師　浅岡　顕　氏
（公財）地震予知総合研究振興会
演題　地山補強土工法の概要について
講師　吉金　正益　氏
（PAN WALL工法協会）
講演　鉛直化施工と最新の切盛複合補強土壁について
講師　山根　茉莉子　氏
（CAB WALL工法研究会）
演題　実務に役立つ設計と施工について
講師　西尾　信行　氏
（PAN WALL工法協会）
演題　マンホール浮上防止対策工法について
講師　吉本　勝彦　氏
（WIDEセフティパイプ工法協会）

平成29年６月27日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会
場　所／富山河川国道事務所
出席者／山本副支部長

平成29年６月27日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／小千谷市立東小千谷中学校
対応者／國兼広報委員

平成29年６月29日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／関川村立関川中学校
対応者／飯田広報委員

平成29年７月４日
社会貢献活動　土木出張PR
場　所／十日町総合高等学校
対応者／髙橋広報委員長

平成29年７月４日
大学等PR活動（説明会）
場　所／金沢大学
対応者／今度トンネル委員長、麻田トンネル委員

平成29年７月４日
コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2017新潟フォーラム（後援）
場　所／新潟市内
内　容／講師　鈴木　和弘　氏
（北陸地方整備局企画部技術調整管理官）
演題「北陸地方整備局の最近の取り組み」
講師　江良　和徳　氏
（コンクリートメンテナンス協会　技術委員長）
演題「劣化機構に応じたコンクリート補修の基本的な考え方」
講師　秋山　哲治　氏
（日本エルガード協会・CP工法研究会）
演題「電気防食技術の解説と応用」
講師　江良　和徳　氏
（コンクリートメンテナンス協会　技術委員長）
演題「亜硝酸リチウムを用いたコンクリート補修技術－塩害・中性化・ASRを中心に－」
講師　五十嵐　数馬　氏
（セメント協会セメント系補修・補強材料推進WG）
演題「すぐに役立つセメント系補修・補強材の基礎知識2017」
講師　中丸　大輔　氏
（日本ペイント（株）顧客推進鉄構グループ）
演題「機能性塗料を用いた補修方法の提案
～塗膜型剥落防止工法と表面保護クリヤー工法～」
講師　野上　克宏　氏
（K.N.コンクリート診断事務所　所属）
演題「最近の点検・調査・診断技術
～橋梁点検調査を中心に～」

平成29年７月９日
長生橋80周年事業（ありがとう長生橋シンポジウム）（協賛）
場　所／長岡市内
内　容／基調講演　稲川　明雄（河井継之助記念館　館長）
研究発表　大島小学校５年生児童
パネルディスカッション
コーディネーター：水流　潤太郎
（長岡市景観審議会委員長）
パネリスト：渡邉　誠介（長岡造形大学　教授）
井林　康
（長岡工業高等専門学校　准教授）
大石　慶太郎
（長岡青年会議所　理事長）
並木　純子
（長岡商工会議所　女性会　副会長）

平成29年７月11日

第16回社会資本整備セミナー（長野会場）

場　所／長野市内
内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師　北陸地方整備局　企画部
技術調整管理官　鈴木　和弘　氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会
委員　阿佐美　敏和　氏

平成29年７月12日

第16回社会資本整備セミナー（新潟会場）

場　所／新潟市内
内　容　演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師　北陸地方整備局　企画部
地方事業評価管理官　倉重　毅　氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会
委員長　須田　玲　氏

平成29年７月12日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県下越分科会

場　所／新潟国道事務所
出席者／若尾建設環境委員

平成29年７月12日

北陸橋梁撤去技術委員会

場　所／北陸地方整備局
出席者／渡邊技術部会長

平成29年７月16日

新潟県中越地震10周年合同追悼式

場　所／柏崎市内
出席者／寺本支部長

平成29年７月20日

平成29年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第２回幹事会

場　所／長岡技術科学大学
出席者／渡邊技術部会長

平成29年７月20日

第16回社会資本整備セミナー（富山会場）

場　所／富山市内
内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師　北陸地方整備局　企画部
地方事業評価管理官　倉重　毅　氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会
委員　林　達夫　氏

平成29年７月21日

第16回社会資本整備セミナー（金沢会場）

場　所／金沢市内
内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師　北陸地方整備局　企画部
技術開発調整官　山岸　達也　氏
演題「北陸地域における水害とその対応」
講師（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
河川及び砂防委員会
委員　西川　幸成　氏

平成29年７月21日

けんせつフェア北陸 in 新潟2017　第２回幹事会

場　所／新潟国道事務所
出席者／松浦事務局長

平成29年７月21日

コンクリートに関する３工法およびCIMガイドライン説明会（共催）

場　所／新潟市内
内　容／演題「CIMガイドライン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
インフラ再生委員会技術部会委員
杉浦　伸哉　氏
講演「機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
土木工事技術委員会
コンクリート技術部会委員
大友　健　氏
講演「現場打ちコンクリート構造物に適用する機械式鉄筋継手工法ガイドライン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
土木工事技術委員会
コンクリート技術部会委員
淺井　宏隆　氏
講演「流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン」の概要説明
講師（一社）日本建設業連合会北陸支部
土木工事技術委員会
コンクリート技術部会委員
谷口　裕史　氏

平成29年７月25日

平成29年度マネジメントセミナー（本部主催）

場　所／新潟市内
講　師　本部担当委員会委員
内　容／建設コンサルタントとマネジメント
PPP／PFIの政策動向と事例紹介
CM業務普及に向けて
マネジメントシステムを効率的に運用するために
建設コンサルタントの環境配慮マネジメント
品質の確保・向上に向けて
参加者／国５名、県12名、政令市10名、会員等92名　計119名

平成29年７月31日
北陸防災連絡会議幹事会（第１回）
場　所／北陸地方整備局
対応者／坂上運営委員長

平成29年７月31日
けんせつフェア北陸 in 新潟2017　第２回実行委員会
場　所／新潟国道事務所
対応者／高橋広報委員長

平成29年７月31日
ほくりく防災・減災考座2017（後援）
場　所／新潟市内
内　容／講演　大規模災害時における警察の取り組み
講師　渡邉　幸治　氏
（新潟県警察本部　警備部警備第二課
災害対策管理官）
講演　近現代新潟県における災害の記憶と記録
講師　中村　元　氏
（新潟大学　人文社会・教育科学系学部
准教授）

平成29年８月１日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部道路管理課
派遣数／１名

平成29年８月３日
北陸支部防災訓練打合せ
場　所／北陸支部会議室
内　容／９月１日に実施する訓練について

平成29年８月４日
道路・トンネル技術講習会
場　所／富山市内
内　容／“特別豪雪地帯”山形県長井市におけるラウンド
アバウト社会実験事例の紹介
奥城　洋　氏
（セントラルコンサルタント株式会社）
全国の特徴的なラウンドアバウトの事例紹介
（一社）建設コンサルタンツ協会技術部会
道路専門委員会
参加者／47名

平成29年８月５日
富山県立大学　ダヴィンチ祭
場　所／富山県立大学
内　容／親子でのペーパーブリッジ作成、パネル展示、
協会動画上映

平成29年８月10日
平成29年度土木用コンクリート製品評価委員会
場　所／北陸地方整備局
対応者／渡邊技術部会長

平成29年８月16日
北陸支部防災訓練について北陸地方整備局と打合せ
場　所／北陸地方整備局
出席者／川村総括防災調整官、見田防災課長、
伴課長補佐、大筆運用企画係長
北陸支部　高橋広報委員長、松浦事務局長

平成29年８月19日
社会貢献活動「おやこで見学会」
（共催：信濃川下流河川事務所、新潟国道事務所、新潟市）
（後援：新潟県、新潟商工会議所、新潟日報社、
ミズベリングやすらぎ堤研究会）
場　所／新潟市内
内　容／信濃川からみた「やすらぎ堤」「萬代橋」など
（乗船体験）
万代クロッシング（体験型実験など）
参加者／親子11組22名

平成29年８月20日
北陸支部富山事務所社会貢献活動
平成29年度ふるさと富山美化大作戦
場　所／富山市内
参加者／14会員22名

平成29年８月21日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部道路建設課
派遣数／１名

平成29年８月22日
平成29年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会
第２回協議会・第３回幹事会
場　所／北陸技術事務所
出席者／寺本支部長、渡邊技術部会長

平成29年８月26日
羽越水害復興50年記念シンポジウム（協賛）
場　所／村上市内
内　容／講演「特別警報と気象災害への備え」
講師　天達　武史　氏（気象予報士）
パネルディスカッション
「羽越水害の経験に学び、これからの防災をともに
考える」
パネリスト　平田　大六　氏（関川村長）
高橋　邦芳　氏（村上市長）
遠藤　友春　氏（村上市教育長）
長島　あさこ　氏
（防災士ママタレント）
コーディネーター　高橋　直子　氏
（新潟日報社論説員）

平成29年８月27日

防災講演会 in 上市町（協賛）

場　所／上市町内

内　容／基調講演　最近の土砂災害の実態について

（一社）砂防フロンティア整備推進機構

理事長　亀江　幸二　氏

活動報告　砂災士の活動について

富山県防災士会

上市町からの報告

土砂災害ハザードマップの取り組みについて

上市町役場

災害対策を考える

山崎　列子　氏

（元かみいち総合病院　副委員長）

平成29年８月28日

講師派遣

派遣先／（一財）新潟県建設技術センター

派遣数／４名

平成29年８月29日

講師派遣

派遣先／（一財）新潟県建設技術センター

派遣数／３名

平成29年８月31日

金沢河川国道事務所との意見交換会

場　所／金沢市内

出席者／富山金沢河川国道事務所長　他13名

新家北陸支部石川地域委員長　他16名

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

会　員　名　簿

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
朝日航洋㈱	北陸空情支社	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計㈱		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測㈱	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
㈱アスコ大東	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
㈱アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ㈱		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ㈱	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
㈱エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー㈱		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術㈱		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質㈱	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
㈱オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建㈱		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
㈱開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質㈱	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル㈱		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
㈱キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
㈱協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
㈱クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
㈱クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山4-2-16 キャッスル米山	025-248-2205 025-248-2206

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
㈱計画情報研究所		920-0025 金沢市駅西本町2-10-6	076-223-5445 076-223-4144
㈱建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ㈱		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
㈱建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
㈱建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 NBF新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
㈱建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台9-9 202号室	025-250-8002 025-250-8004
㈱構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業㈱	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
㈱国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術㈱	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発㈱		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント㈱	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
㈱上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
㈱新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050
相互技術㈱		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント㈱	北陸支社	930-0175 富山市願海寺633	076-436-7855 076-436-6030
㈱ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
舘下コンサルタンツ㈱		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発㈱	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
㈱中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370
㈱長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
㈱千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
㈱東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ㈱	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
㈱東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
㈱東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント㈱		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
㈱ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区網川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
㈱日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営㈱	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
㈱日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
㈱ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21　4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ㈱	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3　6F	025-247-1341 025-246-1005
㈱パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
㈱プラネット・コンサルタント		920-0353 金沢市赤土町ト95-1	076-268-1206 076-268-1207
北電技術コンサルタント㈱		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント㈱		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント㈱	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
㈱村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
明治コンサルタント㈱	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニヤリング㈱	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
（一社）北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
（一財）新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北陸支部役員			
支部理事	支部長	寺本　邦一	開発技建㈱
〃	副支部長	大平　豊	エヌシーイー㈱
〃	副支部長	山本　信二	大日本コンサルタント㈱
〃	副支部長	新家　久司	㈱国土開発センター
〃	運営委員長	坂上　悟	開発技建㈱
〃	運営委員	黒木　康生	㈱日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬川　光太郎	㈱建成コンサルタント
〃	運営委員	原　文宏	㈱建設技術研究所
〃	運営委員	青木　和之	エヌシーイー㈱
〃	運営委員	齊木　勝	㈱キタック
〃	運営委員	笹谷　輝彦	㈱国土開発センター
支部監事	支部監事	高堂　景寿	相互技術㈱
〃	支部監事	舩谷　喜代文	旭調査設計㈱

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
	部会長	寺本　邦一	開発技建㈱
	部会員	大平　豊	エヌシーイー㈱
	部会員	山本　信二	大日本コンサルタント㈱
	部会員	新家　久司	㈱国土開発センター
	部会員	齋藤　真晴	開発技建㈱
	部会員	小見　直樹	エヌシーイー㈱
	部会員	泉　英樹	大日本コンサルタント㈱
	部会員	笹谷　輝彦	㈱国土開発センター

対外活動部会			
	部会長	寺本　邦一	開発技建㈱
	部会員	大平　豊	エヌシーイー㈱
	部会員	山本　信二	大日本コンサルタント㈱
	部会員	新家　久司	㈱国土開発センター
	部会員	中俣　孝	㈱構造技研新潟
	部会員	田中　義明	大日本コンサルタント㈱
	部会員	長森　孝司	㈱日本海コンサルタント
	部会員	矢田　弘	㈱東京建設コンサルタント
	部会員	渡部　長務	エヌシーイー㈱
	部会員　幹事	坂上　悟	開発技建㈱

新潟地域委員会	委員長	中　俣　　孝	㈱構造技研新潟
〃	委　員	山　岸　　守	開発技建㈱
〃	委　員	舩　谷　喜代文	旭調査設計㈱
〃	委　員	齊　木　　勝	㈱キタック
〃	委　員	大　塚　　明	エヌシーイー㈱
〃	委　員	折　笠　　昇	㈱開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	山　本　信　二	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	田　中　義　明	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	竹　腰　直　治	北建コンサル㈱
〃	委　員	吉　田　　勉	㈱上智
〃	委　員	泉　　英　樹	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	榮　　知　之	北陸コンサルタント㈱
石川地域委員会	委員長	新　家　久　司	㈱国土開発センター
〃	委　員	髙　嶋　智　晴	㈱国土開発センター
〃	委　員	長　森　孝　司	㈱日本海コンサルタント

総 括 部 会			
	部会長	青　木　和　之	エヌシーイー㈱
	部会員	佐　藤　　浩	㈱開発技術コンサルタント
	部会員	清　原　宏　二	開発技建㈱
	部会員	泉　　英　樹	大日本コンサルタント㈱
	部会員	浦　　正　光	㈱日本海コンサルタント
	部会員	佐　藤　雄　一	㈱構造技研新潟

技 術 部 会			
	部会長	渡　邊　雅　樹	開発技建㈱
道路委員会	委員長	神　田　和　久	開発技建㈱
〃	委　員	木　村　　浩	エヌシーイー㈱
〃	委　員	首　藤　直　樹	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	木　下　裕　康	㈱国土開発センター
〃	委　員	古　池　　豊	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	藤　本　勇　一	㈱東洋設計
〃	委　員	池　渕　　稔	東京コンサルタンツ㈱
橋梁委員会	委員長	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	近　藤　　治	開発技建㈱
〃	委　員	渡　邉　　敦	エヌシーイー㈱
〃	委　員	大　竹　　滋	㈱キタック
〃	委　員	南　雲　　浩	㈱構造技研新潟
〃	委　員	浦　　修　造	㈱国土開発センター
〃	委　員	鷹　西　　輝	㈱東洋設計
〃	委　員	寺　田　直　樹	㈱開発技術コンサルタント

河川及び砂防委員会	委員長	須　田　　玲	エヌシーイー㈱
〃	委　員	阿左美　敏　和	㈱建設技術研究所
〃	委　員	西　川　幸　成	㈱国土開発センター
〃	委　員	浜　谷　　智	五大開発㈱
〃	委　員	太　原　　晶	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	坂　上　松　則	開発技建㈱
〃	委　員	金　子　幸　生	相互技術㈱
〃	委　員	伊　藤　正　喜	㈱開発技術コンサルタント
トンネル委員会	委員長	今　度　充　之	東京コンサルタンツ㈱
〃	委　員	須　貝　　浩	エヌシーイー㈱
〃	委　員	麻　田　正　弘	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	江　川　千　洋	㈱キタック
〃	委　員	雪　田　真　吾	サンコーコンサルタント㈱
〃	委　員	辻　本　勝　彦	㈱国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小　見　直　樹	エヌシーイー㈱
〃	委　員	佐　藤　吉　一	開発技建㈱
〃	委　員	荘　司　洋　文	㈱キタック
〃	委　員	新田川　貴　之	㈱国土開発センター
〃	委　員	酒　井　信　次	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	埒　　正　浩	㈱日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐　藤　　朗	開発技建㈱
〃	委　員	稲　葉　弘　之	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	若　尾　明　弘	エヌシーイー㈱
〃	委　員	高　橋　　靖	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	西　　暢　人	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	平　野　博　範	㈱国土開発センター
〃	委　員	藤　巻　英　俊	大原技術㈱
品質向上委員会	委員長	真　嶋　利　寿	エヌシーイー㈱
〃	委　員	伊　藤　信　哉	開発技建㈱
〃	委　員	森　　将　恒	㈱キタック
〃	委　員	西　村　　治	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	若　林　　修	東京コンサルタンツ㈱
〃	委　員	野　村　尚　樹	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	山　森　茂　明	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	高　橋　辰　夫	㈱開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋　浦　　慎	開発技建㈱
〃	委　員	岩　淵　和　有	エヌシーイー㈱
〃	委　員	大　塚　秀　行	㈱キタック
〃	委　員	加　藤　　毅	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	渡　辺　浩　二	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	安　藤　正　幸	㈱日本海コンサルタント

若手技術者ワーキンググループ	リーダー	竹　内　　聡	開発技建㈱
〃	サブリーダー	片　岸　将　広	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	七郎丸　一　孝	㈱国土開発センター
〃	委　員	伊　藤　裕　章	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	松　尾　内　助	㈱キタック
〃	委　員	山　田　知　広	㈱建成コンサルタント
〃	委　員	福　崎　正　和	㈱構造技研新潟
〃	委　員	風　間　　恵	相互技術㈱
〃	委　員	飯　野　美　樹	エヌシーイー㈱

広 報 部 会			
	部会長	佐々木　大　介	㈱ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
〃	委　員	浜　辺　良　彦	相互技術㈱
〃	委　員	今　野　　健	エヌシーイー㈱
〃	委　員	高　橋　宏　明	開発技建（株）
〃	委　員	飯　田　　互	㈱開発技術コンサルタント
〃	委　員	坂　原　　徹	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	大　蔵　欣　司	㈱建成コンサルタント
〃	委　員	島　　由　治	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	新　家　哲　平	㈱国土開発センター
〃	委　員	芳　野　夏　輔	㈱建設技術研究所
〃	委　員	国　兼　　功	八千代エンジニヤリング㈱
会誌編集委員会	委員長	須　藤　勝　彦	㈱国土開発センター
〃	委　員	熊　倉　孝　次	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	齋　藤　浩　幸	㈱キタック
〃	委　員	長　田　宏　之	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	水　野　慎　介	㈱日本海コンサルタント

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
新潟現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	大　平　　豊	エヌシーイー㈱
〃	技術総括指揮者	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
〃	副責任者	木　村　幸　雄	開発技建㈱
富山現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	山　本　信　二	大日本コンサルタント㈱
〃	技術総括指揮者	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
〃	副責任者	林　　達　夫	大日本コンサルタント㈱
石川現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	新　家　久　司	㈱国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
〃	副責任者	西　川　幸　成	㈱国土開発センター

顧 問			
		藤　巻　俊　二	開発技建㈱

編集後記

秋になりました。一年の季節の中で私は秋が一番好きです。夏は暑いし冬は寒い、春は温かいけれど花粉症に悩まされるなど至極身勝手な理由ではありますが、秋が一番過ごしやすくて好きです。

秋といえば「読書の秋」、「芸術の秋」、「スポーツの秋」、「紅葉の秋」、「食欲の秋」、いろんな秋がありますが皆様にとっての秋とはどのようなものでしょうか。私はもちろん「食欲の秋」です。（笑）

一年を通しておいしい食材が多い日本列島、なぜ「食欲の秋」と言われるようになったのか。様々な由来・理由があるようですが、一因として「日照時間の減少・照度低下とセロトニン分泌量の低下」というものがあるようです。夏から秋になると日照時間が減少して日中の明るさが低下しますが、それに伴い精神の安定化を保つ作用のある脳内神経伝達物質であるセロトニンというものが少なくなってしまい、このセロトニンが食欲の調整に一役買っているようです。日光にあたる以外にセロトニン分泌量を増やす方法は、糖質、乳製品、肉類の摂取や睡眠をとることで…なにやら食欲も減退するような難しい話になってしまいました。

この秋はおいしいものをたくさん食べて、セロトニンを増やして元気に過ごし、日常の業務や協会活動を頑張りたいと思います。

水野慎介

発　行 ／ 一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370　FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 ／ 須藤勝彦

委　員 ／ 齋藤浩幸　　熊倉孝次　　長田宏之　　水野慎介

発　行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階

TEL 025-282-3370　FAX 025-282-3371

http://hr-jcca.jp/